

平成30年度

仙北市
「全国学力・学習状況調査」
結果分析・改善委員会

報 告 書

平成31年 1月

目 次

I	報告書の作成にあたって	1
II	調査の概要	2
1	調査の目的	2
2	実施主体	2
3	参加主体	2
4	調査の対象	2
5	調査事項及び手法	2
6	調査の方式	3
7	調査期日	3
8	4月18日に調査を実施した児童生徒数・学校数	3
III	結果	2
1	教科に関する調査の結果	4
(1)	概要	4
(2)	設問分類・区分別集計結果から	6
(3)	各設問の集計結果から	13
2	児童生徒質問紙調査の結果	19
(1)	概要	19
(2)	小学校6年生にみられる望ましい傾向	19
(3)	小学校6年生にみられる課題とされる傾向	22
(4)	中学校3年生にみられる望ましい傾向	25
(5)	中学校3年生にみられる課題とされる傾向	27
(6)	現中学校3年生の小学校6年生時との経年比較による成果	31
(7)	現中学校3年生の小学校6年生時との経年比較による課題	33
(8)	仙北市の目指す子ども像に関わる3年間の比較	34
3	学校質問紙調査の結果	39
(1)	概要	39
(2)	小・中学校で積極的に取り組んでいる仙北市の学校教育の重点に関わる項目	39
(3)	小・中学校の連携に関わる項目	40
(4)	今後の検討課題と考えられる項目	41
IV	改善の方法	42
1	全体的な取組として	42
(1)	今年度の具体的方策への取組から	43
(2)	各中学校区の情報交換から	45
(3)	共通実践すべき具体的方策	45
2	学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策	46
3	改善のための仙北市教育委員会の教育施策の在り方について	47
4	学校・家庭・地域の一層の連携	48
V	参考資料	50
資料1	「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱	50
資料2	平成30年度「仙北市全国学力・学習状況調査」 結果分析・改善委員会名簿	53

I 報告書の作成にあたって

本報告書は、「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」に則って作成した。
報告書作成の基本的な立場については「第2条（結果の公表）」に基づき、また、その内容については、「第4条（改善策の立案）」の規定に従っている。

（結果の公表）

第2条

仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- （1）教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- （2）本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- （3）本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- （4）本調査により測定した学力は特定の一部であること
- （5）本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

（改善策の立案）

第4条

結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- （1）主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- （2）主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- （3）改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- （4）その他

以上の点を踏まえて、仙北市教育委員会が仙北市民に対する説明責任を果たし、学校の教育及び教育委員会の教育施策の改善に資することを目的として本報告書を作成した。

Ⅱ 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 実施主体 文部科学省

3 参加主体 市町村教育委員会

4 調査の対象

【小学校調査】

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年

【中学校調査】

中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、
中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

5 調査事項及び手法

(1) 児童生徒に対する調査

① 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕

国語、算数・数学はそれぞれ「主として『知識』に関する問題」（A）と「主として『活用』に関する問題」（B）を出題。

理科は「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題を一体的に出題。

i) 主として知識に関する問題

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など

ii) 主として活用に関する問題

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

② 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査を実施

(2) 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施

- 6 調査の方式 悉皆調査
- 7 調査期日 平成30年4月17日（火）

8 4月17日に調査を実施した児童生徒数・学校数

小学校児童数	児 童 数 （人）					
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理 科	質問紙
全国（公立）	1,030,025	1,029,799	1,030,013	1,029,847	1,029,828	
秋田県（公立）	7,255	7,253	7,255	7,253	7,254	
仙北市教育委員会	212	212	212	212	212	212

中学校生徒数	生 徒 数 （人）					
	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理 科	質問紙
全国（公立）	966,764	966,786	966,969	966,908	967,188	
秋田県（公立）	7,364	7,365	7,368	7,367	7,366	
仙北市教育委員会	200	200	200	200	200	200

調査実施校数	4月17日に調査を実施した小学校、 特別支援学校小学部	4月17日に調査を実施した中学校、 中等教育学校 特別支援学校中学部
全国（公立）	19,386校	9,597校
全国（国立）	75校	77校
全国（私立）	122校	366校
合計	19,583校	10,040校
仙北市教育委員会	7校	5校

Ⅲ 結果

- ※ 本調査は、幅広く児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施しているが、実施教科が国語、算数・数学、理科の3教科であり、また、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではない。従って、本調査の結果については児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校等における教育活動の一側面にすぎないことに留意する必要がある。
- ※ 「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第2条に基づき、教科に関する調査結果の数値による公表は行わない。〈表2〉の階層区分と表現による公表としている。

1 教科に関する調査の結果

(1) 概要

本調査における全国調査校（以下、全国）及び秋田県調査校（以下、秋田県）の平均正答率と仙北市調査校（以下、仙北市）の平均正答率を、小学校6年国語・算数、中学校3年国語・数学のそれぞれ「A：主として知識」及び「B：主として活用」の区分、並びに小学校6年理科、中学校3年理科の区分で比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分の視点から比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 国及び秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、〈表1〉にあるように、仙北市の小学校6年生の国語A・B、算数A・B、理科、中学校3年生の国語A・B、数学A・B、理科の学習状況は「概ね満足できる状況」もしくは「十分満足できる状況」である。
- ② 国の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、小学校6年生の全ての教科・区分、中学校3年生の数学Bにおいて仙北市が上回っている。
- ③ 仙北市の平均正答率をみると、特に小学校6年生算数Bにおいて良好な状況であり、秋田県の平均正答率を上回っている。
- ④ 中学校3年生が小学校6年生時の正答率と比較した場合、国語B、数学Bにおいて秋田県との差が縮まっている。

【課題】

- ① 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、仙北市が小学校6年生の国語B、算数A、理科が若干下回っている。
- ② 秋田県の平均正答率と仙北市の平均正答率を比較した場合、中学校3年生の全ての教科・区分において下回っている。
- ③ 中学校3年生が小学校6年生時の正答率と比較した場合、全ての教科において全国平均を上回る割合が縮まっており、ほぼ同程度となっている。

〈表 1〉：全国及び秋田県の平均正答率との比較（教科・問題別）

学年	教科等	区分	平均正答率	仙北市の状況
小学校 6年生	国語A:主として知識	全国(公立)	70.7%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	77.0%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	54.7%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	61.0%	概ね満足できる状況
	算数A:主として知識	全国(公立)	63.5%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	67.0%	概ね満足できる状況
	算数B:主として活用	全国(公立)	51.5%	十分満足できる状況
		秋田県(公立)	57.0%	概ね満足できる状況
中学校 3年生	理科:知識・活用	全国(公立)	60.3%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	66.0%	概ね満足できる状況
	国語A:主として知識	全国(公立)	76.1%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	80.0%	概ね満足できる状況
	国語B:主として活用	全国(公立)	61.2%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	66.0%	概ね満足できる状況
	数学A:主として知識	全国(公立)	46.9%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	51.0%	概ね満足できる状況
	数学B:主として活用	全国(公立)	45.9%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	50.0%	概ね満足できる状況
	理科:知識・活用	全国(公立)	66.1%	概ね満足できる状況
		秋田県(公立)	70.0%	概ね満足できる状況

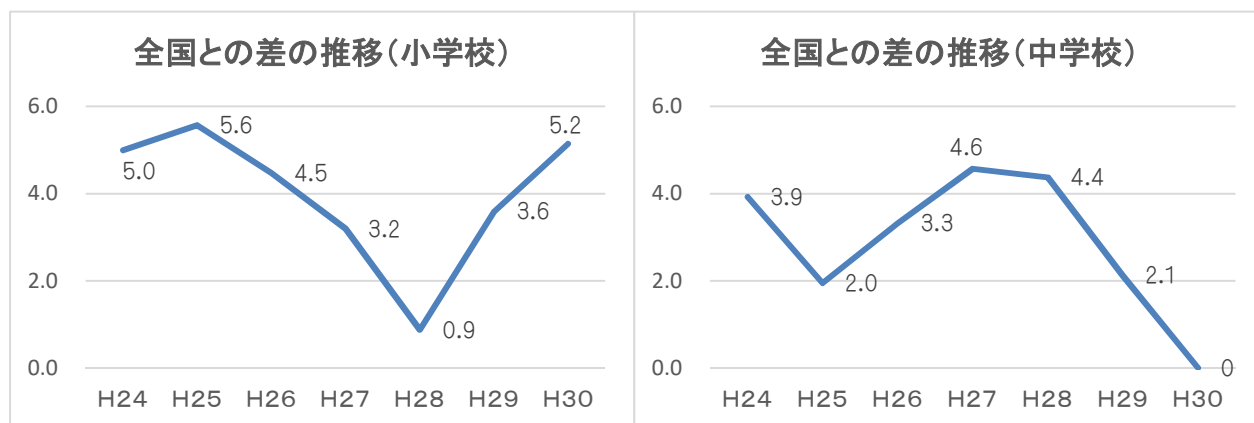
※〈表 1〉の「仙北市の状況」は、国及び県の平均正答率と比較し、〈表 2〉の表現にしたがって示した。

〈表 2〉：〈表 1〉の「仙北市の状況」に係る階層区分と表現（以下の表同じ）

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6%以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +5%以下～-5%以上であるもの	概ね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6%以下であるもの	改善が必要な状況

※〈表 2〉は「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果取扱要綱」第 3 条（別表 2）による。

〈グラフ 1〉：全国と仙北市との平均正答率の差の推移（国語 A・B、算数・数学 A・B の平均）



(2) 設問分類・区分別集計結果から

本調査における設問を「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」で分類し、全国及び秋田県と仙北市の平均正答率を比較して、その状況が良好であるものを「成果」として、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

また、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について「学習指導要領の領域」「評価の観点」「問題形式」の視点から、その状況が良好であるものを「成果」として、また、改善のために検討の余地があるものを「課題」として以下に示す。

【成果】

- ① 全国と仙北市の平均正答率の比較では、小学校6年、中学校3年ともに国語A・B、算数・数学A・B、理科の全ての区分において、「概ね満足できる状況」あるいは「十分満足できる状況」である。
- ② 同様に全国と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年国語Aでは、「指導要領の領域」の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」の「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」の「選択式」「短答式」が「十分満足できる状況」である。
 - イ) 小学校6年国語Bでは、「指導要領の領域」の「書くこと」「読むこと」、「評価の観点」の「国語への関心・意欲・態度」「書く能力」「読む能力」、「問題形式」の「記述式」が「十分満足できる状況」である。
 - ウ) 小学校6年算数Aでは、「評価の観点」の「数量や図形についての技能」、算数Bでは、「指導要領の領域」の「図形」、「問題形式」の「選択式」が十分満足できる状況である。
 - エ) 小学校6年理科では、「主として『知識』に関する問題」が「十分満足できる状況」であり、「評価の観点」の「自然事象についての知識・理解」、「問題形式」の「短答式」、「記述式」が「十分満足できる状況」である。
 - エ) 中学校3年理科では、「評価の観点」の「自然事象への関心・意欲・態度」が「十分満足できる状況」である。
- ③ 秋田県と仙北市の平均正答率の比較からは以下のことが言える。
 - ア) 小学校6年算数Bでは、「問題形式」の「選択式」が「十分満足できる状況」である。

【課題】

- ① 秋田県と仙北市の平均正答率を比較した場合、次のような課題がある。
 - ア) 中学校3年国語Aでは、「評価の観点」の「話す・聞く能力」、国語Bでは、「問題形式」の「選択式」が「改善が必要な状況」であり課題である。
 - イ) 中学校3年数学Aでは、「指導要領の領域」の「資料の活用」、数学Bでは、「評価の観点」の「数学的な技能」が「改善が必要な状況」であり課題がある。
 - ウ) 中学校3年理科では、「指導要領の領域」の「化学的領域」、「評価の観点」の「観察・実験の技能」、「問題形式」の「短答式」「記述式」が「改善が必要な状況」であり課題である。

〈表 3－(1)〉：「小学校 6 年国語 A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	1	92.3	90.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	1	78.4	73.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	2	77.4	74.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	74.7	67.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
評価 の 観点	国語への関心・意欲・態度	0				
	話す・聞く能力	1	92.3	90.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	1	78.4	73.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	2	77.4	74.0	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	8	74.7	67.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問題 形式	選択式	11	79.4	73.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	1	49.7	35.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	0				

〈表 3－(2)〉：「小学校 6 年国語 B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	3	69.3	64.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	5	53.7	45.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読むこと	2	59.7	50.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0				
評価 の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	42.2	33.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	話す・聞く能力	3	69.3	64.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	5	53.7	45.6	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	読む能力	2	59.7	50.8	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	0				
問題 形式	選択式	5	72.4	67.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	0				
	記述式	3	42.2	33.2	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

〈表 3－(3)〉：「小学校 6 年算数 A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	数と計算	5	67.3	62.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	量と測定	4	76.0	72.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	3	59.3	56.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量関係	5	61.9	60.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 観点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	0				
	数量や図形についての技能	5	70.6	63.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量や図形についての知識・理解	9	65.3	63.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	10	64.8	61.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	73.2	67.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

〈表 3－(4)〉：「小学校 6 年算数 B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	数と計算	6	63.5	58.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	量と測定	4	57.5	52.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	2	67.8	59.9	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	数量関係	5	50.4	45.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 観点	算数への関心・意欲・態度	0				
	数学的な考え方	9	54.8	49.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量や図形についての技能	0				
	数量や図形についての知識・理解	1	78.8	71.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	3	58.6	54.0	十分満足できる状況	十分満足できる状況
	短答式	2	73.1	66.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	50.1	43.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(5)〉：「小学校 6 年理科」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
問題	主として「知識」に関する問題	3	84.0	78.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	主として「活用」に関する問題	13	62.0	56.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
指導 領域	物質	4	64.0	59.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	エネルギー	4	59.8	53.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	生命	4	79.4	73.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	地球	6	55.3	49.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 観点	自然事象への関心・意欲・態度	1	83.3	82.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	科学的な思考・表現	12	59.7	54.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	観察・実験の技能	1	74.1	71.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	自然事象についての知識・理解	2	89.0	81.5	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
問題 形式	選択式	13	68.2	63.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	1	91.4	79.4	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	記述式	2	37.1	28.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況

〈表 3－(6)〉：「中学校 3 年国語 A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	3	80.5	75.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	4	78.0	73.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	4	80.3	76.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	80.1	76.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の 観点	国語への関心・意欲・態度	0				
	話す・聞く能力	3	80.5	75.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	書く能力	4	78.0	73.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	4	80.3	76.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	21	80.1	76.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	21	80.3	76.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	11	79.3	74.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

〈表 3－(7)〉：「中学校 3 年国語 B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域	話すこと・聞くこと	3	81.6	76.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書くこと	2	34.0	31.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読むこと	6	58.0	53.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	54.4	49.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の 観点	国語への関心・意欲・態度	3	53.1	50.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	話す・聞く能力	3	81.6	76.6	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	書く能力	2	34.0	31.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	読む能力	6	58.0	53.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	言語についての知識・理解・技能	1	54.4	49.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	6	72.2	66.7	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	短答式	0				
	記述式	3	53.1	50.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(8)〉：「中学校 3 年数学 A」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域 領域	数と式	12	74.5	71.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	12	72.5	69.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	関数	8	59.5	55.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	資料の活用	4	66.4	63.5	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
評価 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	0				
	数学的な技能	14	73.6	70.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	22	67.0	63.3	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	18	64.9	61.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	18	74.3	70.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	0				

〈表 3－(9)〉：「中学校 3 年数学 B」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立)%	全国平均正答率 (公立)%	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
指導 領域 領域	数と式	4	55.1	51.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	図形	3	50.3	46.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	関数	3	57.5	52.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	資料の活用	4	41.2	38.0	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
評価 観 点	数学への関心・意欲・態度	0				
	数学的な見方や考え方	10	49.2	45.1	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	数学的な技能	4	54.0	51.3	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	数量・図形などについての知識・理解	0				
問題 形式	選択式	2	64.2	61.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	7	60.0	56.2	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	記述式	5	32.1	27.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況

〈表 3－(10)〉：「中学校 3 年 理科」の設問分類・区分別集計結果

分類	区分	対象 設問数	秋田県平均正答率 (公立) %	全国平均正答率 (公立) %	仙北市の状況	
					県との比較	国との比較
問題	主として「知識」に関する問題	11	72.0	67.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	主として「活用」に関する問題	16	70.0	64.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
指導 の領 要域 領	物理的領域	7	77.8	74.4	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	化学的領域	8	70.5	65.0	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	生物的領域	6	78.1	72.5	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	地学的領域	7	60.1	57.8	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
評価 の観 点	自然事象への関心・意欲・態度	1	83.0	74.0	概ね満足できる状況	十分満足できる状況
	科学的な思考・表現	16	69.6	64.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	観察・実験の技能	4	70.5	67.0	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	自然事象についての知識・理解	8	72.6	68.7	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
問題 形式	選択式	17	74.1	70.9	概ね満足できる状況	概ね満足できる状況
	短答式	4	75.5	70.2	改善が必要な状況	概ね満足できる状況
	記述式	6	56.7	50.1	改善が必要な状況	概ね満足できる状況

(3)各設問の集計結果から

ここでは、仙北市の状況の中で学年・教科・区分について、設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるもののうち、特徴的なものについて示す。

①小学校6年「国語」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号4」「『くらやみの物語』を読んで心に残ったことを一文を取り上げて説明する際に、その一文が心に残った理由として適切なものを選択する」では、「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 心に残った叙述を取り上げ、その叙述を取り上げた理由を考えることを通して、象徴性や暗示性の高い表現、メッセージや題材を強く意識させる表現などに着目できるようにする。
- ◆ 登場人物の行動や相互関係に着目させるなど、系統的・段階的な指導の積み重ねにより、叙述に即して、登場人物の心情を読み取れるようにする。

②小学校6年「国語」**「B:主として活用」**について

ア)「設問番号1三」「これから言葉をどのように使っていきたいかについて、北川さん、小池さんのいずれかの意見を取り上げ、 を書く」では、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」・「書くこと」、「評価の観点」では「国語への関心・意欲・態度」・「話す・聞く能力」・「書く能力」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 自分の考えをまとめる際に、相手の意見と自分の意見との共通点や相違点を整理したり、相手の意見を踏まえ、自分の考えを見直し、筋道を立ててまとめたりできるようにする。
- ◆ 話合いや話し手の目的を意識して聞くこと、自分の考えと比べること等、ねらいを明確にした話合い活動を系統的・段階的に積み重ね、発達段階に応じた話合いの仕方を身に付けられるようにする。

③小学校6年「算数」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号2」「答えが $12 \div 0.8$ で求められる問題を選ぶ」では、「小数の除法の意味について理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と計算」、「評価の観点」では「数量や図形についての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号8」「200人のうち80人が小学生のとき、小学生の人数は全体の人数の何%かを選ぶ」では、「百分率を求めることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数量

や図形についての技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

＜指導の改善点＞

- ◆ 数量の関係を正しく捉え、立式することができるように、学年に応じて、図や数直線などを用いて表す活動を系統的・段階的に積み重ねる。
- ◆ 基準量と比較量を正しく捉え、 $(\text{比較量}) \div (\text{基準量})$ で割合を求めることができる、及び基準量を100として、それに対する割合で表す方法が百分率であることを理解できるようにする。

④小学校6年「算数」『B:主として活用』について

ア)「設問番号2(1)」 「全体で使える時間の中で、『ルール説明』に使える時間は何かを書く」では、「示された情報を解釈し、条件に合う時間を求めることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「量と測定」・「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号3(1)」 「メモ1とメモ2は、それぞれ、グラフについてどのようなことに着目して書かれているのかを書く」では、「メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述できる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数量関係」、「評価の観点」では「数学的な考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

＜指導の改善点＞

- ◆ 数量の関係に着目して、図や数直線を用いて、数理的に処理することができるようにする。
- ◆ グラフの特徴を複数の観点で捉えて、読み取った情報を表現することができるようにする。

⑤小学校6年「理科」について

ア)「設問番号2(2)」 「流れる水の働きによる土地の浸食について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、斜面に水を流したときの立てた棒の様子を選ぶ」では「土地の浸食について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる」に課題がある。

この設問は「知識・活用の枠組み」では「主として『活用』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「B区分の地球」、「評価の観点」では「科学的な思考・表現」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号2(3)」 「一度に流す水の量と棒の様子との関係から、大雨が降って流れる水の量が増えたときの地面の削られ方を選び、選んだわけを書く」では「より妥当な考えをつくり出すために、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述できる」に課題がある。

この設問は「知識・技能の枠組み」では「主として『活用』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「B区分の地球」、「評価の観点」では「科学的な思考・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号 3 (2)」 「回路を流れる電流の流れ方について、自分の考えと異なる他者の予想を基に、検流計の針の向きと目盛りを選ぶ」では「電流の流れ方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる」に課題がある。

この設問は「知識・技能の枠組み」では「主として『活用』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「A 区分のエネルギー」、「評価の観点」では「科学的な思考・表現」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

エ)「設問番号 3 (4)」 「目的の時間帯だけモーターを回すため、太陽の 1 日の位置の変化に合わせた箱の中での光電池の適切な位置や向きを選ぶ」では「太陽の 1 日の位置の変化と光電池に生ずる電流の変化の関係を目的に合ったものづくりに適用できる」に課題がある。

この設問は「知識・技能の枠組み」では「主として『活用』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「A 区分のエネルギー、B 区分の地球」、「評価の観点」では「科学的な思考・表現」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

＜指導の改善点＞

- ◆ 実験前の段階で、実験方法を考えさせるとともに、「自分の予想が正しければ、こんな実験結果になるはず」と見通しをもてるようにする。
- ◆ 考察前に、実験結果の傾向に着目し、吟味する場を設け、考察の段階で、実験結果を基に、より妥当な考え方に修正できるようにする。
- ◆ 単元の振り返りの段階で、生活とのつながりを考える場を設定する。

⑥中学校3年「国語」 「A:主として知識」について

ア)「設問番号 6 一」 「話合いの際のメモのとり方の説明として適切なものを選択する」では、「話合いの話題や方向を捉える」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「話すこと・聞くこと」、「評価の観点」では「話す・聞く能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 8 三エ」 「適切な語句を選択する(彼はせきを切ったように話し始めた)」では、「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、「評価の観点」では「言語についての知識・理解・技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

＜指導の改善点＞

- ◆ 主体的に話合いに参加するために、何についてどのような目的で話し合っているのかを常に意識して話したり聞いたりできるようにする。
- ◆ 語感を磨き語彙を豊かにするために、語句の意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用できるようにする。
- ◆ 全ての領域の学習で言葉に着目した授業を系統的・段階的に積み重ねることにより、語彙を蓄積する。

⑦中学校3年「国語」 「B:主として活用」について

ア)「設問番号 1 二」 「複数の辞書を引用して『天地無用』の意味を示す効果として適切なものを選択する」では、「文章の構成や展開について自分の考えをもつ」に課題があ

る。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 3 二」「文章中の表現について語った人物として適切なものを選択する」では、「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「読むこと」、「評価の観点」では「読む能力」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

＜指導の改善点＞

- ◆ 説明的な文章を読む際に、書き手が読み手の理解を促すためにしている文章の構成や展開の工夫を、具体的に考え、捉えることができるようにする。
- ◆ 文学的な文章を読む際に、登場人物の言動が、話の展開や作品全体に表れたものの見方などにどのように関わっているかを考えながら読めるようにする。

⑦中学校3年「数学」**「A:主として知識」**について

ア)「設問番号 1 (3)」「 $2 \times (-5^2)$ 計算する」では、「指数を含む正の数と負の数の計算ができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数学的な技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号 8」「対頂角は等しいことの証明について正しい記述を選ぶ」では、「証明の必要性和意味を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「図形」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号 9 (1)」「比例 $y = 5x$ について、正しい記述を選ぶ」では、「比例 $y = ax$ における比例定数 a の意味を理解している」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「関数」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

エ)「設問番号 11 (2)」「一次関数 $y = -2x + 6$ が表すグラフを選ぶ」では、「一次関数 $y = ax + b$ について、 a と b の値とグラフの特徴を関連付けて理解している」に課題がある。

オ)「設問番号 15 (1)」「1 枚の硬貨を多数回投げたときの表が出る相対度数の変化の様子について、正しい記述を選ぶ」では、「多数回の思考の結果から得られる確率の意味を理解している二元一次方程式が表すグラフを選ぶ」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「資料の活用」、「評価の観点」では「数量や図形などについての知識・理解」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

カ)「設問番号 15 (2)」「大小 2 つのさいころを同時に投げるとき、和が 8 になる確率を求める」では、「表などを利用して、確率を求めることができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「資料の活用」、「評価の観点」では「数学

的な技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 指数を含む計算では、累乗の意味を理解し、正確に計算できるようにする。
- ◆ 具体的な実験や観察では全てを調べ尽くすことができないことを確認し、論理展開によって推論を導く証明が必要であることを理解できるようにする。
- ◆ x と y の対応関係や変化の様子を捉える活動を取り入れ、比例定数の意味を理解できるようにする。
- ◆ 一次関数の式とグラフの傾きや切片の特徴を関連させて理解できるようにする。
- ◆ 確率の意味について、観察や実験などの活動を取り入れて、実感を伴って理解できるようにする。
- ◆ 確率を求めるために、樹形図や二次元の表などを利用して、起こり得る全ての場合の数を正しく数え上げられるようにする。

⑧中学校3年「数学」**「B:主として活用」**について

ア)「設問番号1(1)」 「全校生徒300人に対する上位4曲を回答した生徒の割合を求める」では、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「資料の活用」、「評価の観点」では「数学的な技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号2(2)」 「はじめの数としてどんな整数を入れて計算しても、計算結果はいつでも4の倍数になる説明を完成する」では、「事柄が成り立つ理由を、構想を立てて説明することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「数と式」、「評価の観点」では「数学的な見方や考え方」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号5(1)」 「S社の団体料金が通常料金の何%引きになっているかを求める式を書く」では、「与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができる」に課題がある。

この設問は「学習指導要領の領域」では「資料の活用」、「評価の観点」では「数学的な技能」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 実生活の場面で、事象を目的に応じて数値化したり、与えられた情報から必要な情報を選択したりしながら、的確に処理することができるようにする。
- ◆ 事柄が一般的に成り立つ理由を説明するために、文字式や言葉を用いて根拠を明らかにできるようにする。

⑩中学校3年「理科」について

ア)「設問番号2(2)」 「理科通信のアサリに興味をもち、アサリが出す砂の質量は何に関係しているのかを科学的に探究する学習場面において、水溶液の濃さや無脊椎動物に関する知識、問題解決の技能を活用できるかどうかをみる」では「濃度が異なる食塩水のうち、特定の質量パーセント濃度のものを指摘できる」に課題がある。

この設問は「知識・技能の枠組み」では「主として『知識』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「第1分野の化学的領域」、「評価の観点」では「観察・実験の技能」、「問題形式」では「選択式」に分類・区分される設問である。

イ)「設問番号3(3)」「コンピュータを使ったシミュレーションで台風の進路や風向を科学的に探究する場面において、日本の天気の特徴に関する知識と観測方法や記録の仕方に関する知識・技能・条件制御の知識・技能を活用することができるかどうかをみる」では「シミュレーションの結果について考察した内容を検討して改善し、台風の進路を決める条件を指摘できる」に課題がある。

この設問は「知識・技能の枠組み」では「主として『活用』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「第2分野の地学的領域」、「評価の観点」では「科学的な思考・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

ウ)「設問番号6(2)」「自転車のライトの豆電球型のLEDが豆電球に比べて明るく点灯したことに疑問をもって科学的に探究する場面において、電流・電圧と抵抗及び電力と発生する光の明るさとの関係に関する知識・技能を活用することができるかどうかをみる」では「オームの法則を使って、抵抗の値を求めることができる」に課題がある。

この設問は「知識・技能の枠組み」では「主として『知識』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「第1分野の物理的領域」、「評価の観点」では「自然事象についての知識・理解」、「問題形式」では「短答式」に分類・区分される設問である。

エ)「設問番号9(2)」「部屋に見立てた容器に植物を入れて温度の変化を科学的に探究する場面において、蒸散と湿度に関する知識、問題解決の知識・技能を活用することができるかどうかをみる」では「植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」に課題がある。

この設問は「知識・技能の枠組み」では「主として『活用』に関する問題」、「学習指導要領の区分等」では「第2分野の地学的領域」、「評価の観点」では「科学的な思考・表現」、「問題形式」では「記述式」に分類・区分される設問である。

<指導の改善点>

- ◆ 水溶液の濃度計算、電流回路における抵抗値の計算など、公式に当てはめて、値を算出することができるようにする。
- ◆ 事象変化に関わる条件を予想したり、探し出したりすることができるようにする。

2 児童生徒質問紙調査の結果

(1) 概要

本調査における児童生徒質問紙調査について、仙北市の特に顕著な傾向がみられるものについて示す。

全国及び秋田県の状況と比較した場合、仙北市の小学校6年生と中学校3年生は、若干の課題はみられるものの、全体としては望ましい傾向にあると言える。

特に「自己肯定感」「地域や社会との関わり」「基本的生活習慣・学習習慣」に肯定的な回答率が高い傾向が見られた。

(2) 小学校6年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

小学校6年生の質問事項62項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、90%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(5)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.2
2	(11)	家で、学校の宿題をしていますか	96.7
3	(46)	理科の授業では理科室で観察や実験を週1回又は月1回以上行いましたか	95.8
4	(6)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.8
5	(7)	朝食を毎日食べていますか	94.8
6	(60)	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	94.3
7	(3)	将来の夢や目標を持っていますか	94.3
8	(62)	調査問題の解答時間は十分でしたか（理科）	94.3
9	(33)	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.4
10	(40)	理科の授業の内容はよく分かりますか	93.4
11	(38)	理科の勉強は好きですか	92.5
12	(47)	観察や実験を行うことは好きですか	92.5

13	(41)	自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか	92.0
14	(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.9
15	(4)	学校のきまりを守っていますか	91.5
16	(52)	5年生のとき、理科の授業がおもしろいと思いましたか	91.5
17	(58)	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	91.5
18	(28)	算数の勉強は大切だと思いますか	91.1
19	(1)	自分には、よいところがあると思いますか	91.0
20	(49)	理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか	90.1
21	(55)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	90.1

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+10ポイント以上のものは次の表のとおりである。（県の割合との比較は参考のために示した。）

NO	質問 番号	質問事項	全国 比較	県比較
1	(12)	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	26.5	-2.4
2	(24)	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	21.6	12.5
3	(45)	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	17.7	3.5
4	(17)	週末に何をして過ごすことが多いですか	17.6	1.0
5	(20)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	16.0	-0.5
6	(10)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	15.8	-1.9
7	(50)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	15.0	-1.2
8	(60)	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	14.0	5.5

9	(55)	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	13.4	2.0
10	(56)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	13.0	0.3
11	(23)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	12.9	-1.1
12	(21)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	11.6	-1.5
13	(58)	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	11.5	3.1
14	(19)	5年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	11.5	-2.9
15	(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	11.4	-6.1
16	(27)	算数の勉強は好きですか	11.0	0.4
17	(59)	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	10.2	5.5
18	(48)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	10.2	-2.7

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が＋3ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(24)	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	12.5
2	(60)	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）	5.5
3	(59)	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）	5.5
4	(61)	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）	5.3
5	(45)	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	3.5
6	(58)	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）	3.1

(3) 小学校6年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

小学校6年生の質問事項62項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、75%未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(25)	新聞を読んでいますか	23.1
2	(44)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	32.1
3	(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	61.3
4	(24)	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか	63.2
5	(61)	調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）	70.3
6	(45)	理科の授業で、自分の考えをまわりの人に説明したり発表したりしていますか	72.2
7	(32)	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	72.6
8	(13)	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	73.1
9	(42)	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	73.1
10	(56)	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	74.0

※ 全国との比較から

児童質問紙調査のうち、全国の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	全国比較
1	(14)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）※2時間以上	-16.6
2	(15)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）※1時間以上	-5.6

※ 秋田県との比較から

児童質問紙調査のうち、秋田県の小学校6年生の肯定的回答の割合と仙北市の小学校6年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(32)	算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	-8.2
2	(42)	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	-7.2
3	(39)	理科の勉強は大切だと思いますか	-6.9
4	(43)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	-6.6
5	(34)	算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	-6.5
6	(13)	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	-6.4
7	(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	-6.1
8	(30)	算数の授業で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思いますか	-5.7
9	(14)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）	-5.6
10	(28)	算数の勉強は大切だと思いますか	-5.3

11	(57)	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	-5.2
12	(36)	算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか	-4.3
13	(2)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	-4.1
14	(29)	算数の授業の内容はよく分かりますか	-3.9
15	(54)	今、社会のことがらや自然のことがらに、「不思議だな」「おもしろいな」などと思いますか	-3.9
16	(15)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	-3.1
17	(44)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	-3.0

- ◆ 各教科で学習したことを、普段の生活の中で活用できるか考えることについて、課題が見られる。
- ◆ 新聞を読んでいる割合は、前年度と同様で低い。が、テレビやインターネットなどで、ニュースを見る割合が高く（質問紙肯定的回答率 87.3%）、情報源が変化していることの表れと感じる。その分、新聞を活用する活動等、学校で新聞に触れる機会を設けることが課題となる。
- ◆ 話し合う活動を、自分の考えを深めたり、広げたりすることに結び付けることが課題となる。
- ◆ 自分で計画を立てて学習をしていたり、予習・復習をしっかり行っていたりと、よい家庭学習の習慣が身に付いてきている様子が見られる。その反面、学習時間の短さや読書をする割合の低さが課題となる。

(4) 中学校3年生にみられる望ましい傾向

※ 「肯定的回答率」の高い質問

中学校3年生の質問事項59項目に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、90%を超えた質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(46)	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか (週1回以上及び月1回以上)	99.0
2	(37)	今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題 がありましたが、それらの問題で最後まで解答を書こうと努力しました か	98.5
3	(51)	今回の理科の問題について、解答を文章などで書く問題がありましたが、 最後まで解答を書こうと努力しましたか	98.0
4	(5)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.5
5	(6)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.5
6	(4)	学校の規則を守っていますか	95.0
7	(7)	朝食を毎日食べていますか	95.0
8	(30)	数学ができるようになりたいと思いますか	93.5
9	(47)	観察や実験を行うことは好きですか	93.5
10	(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.0
11	(11)	家で、学校の宿題をしていますか	93.0
12	(28)	数学の勉強は大切だと思いますか	93.0
13	(19)	1, 2年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域 の人と関わったりする機会があったと思いますか	90.5
14	(36)	数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていま すか	90.5
15	(59)	調査問題の解答時間は十分でしたか（理科）	90.5

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校 3 年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校 3 年生の肯定的回答の割合を比較して、差が + 10 ポイント以上のものは次の表のとおりである。（県の割合との比較は参考のために示した。）

N0	質問 番号	質問事項	全国 比較	県比較
1	(20)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	33.9	22.0
2	(19)	1, 2 年生までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか	21.8	1.8
3	(12)	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	21.8	-7.8
4	(10)	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	19.4	-1.7
5	(53)	1, 2 年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	13.7	-2.6
6	(48)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	13.5	-7.4
7	(49)	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	13.2	-3.4
8	(35)	数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解するようにしていますか	13.1	-0.2
9	(50)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	13.0	-6.4
10	(45)	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	12.6	-7.1
11	(46)	理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか（週 1 回以上及び月 1 回以上）	11.9	1.6
12	(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	11.8	-7.0
13	(47)	観察や実験を行うことは好きですか	11.4	2.4
14	(38)	理科の勉強は好きですか	11.1	-3.4
15	(40)	理科の授業の内容はよく分かりますか	10.0	-1.6

※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が+3ポイント以上のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(20)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	22.0

(5) 中学校3年生にみられる課題とされる傾向

※ 「肯定的回答率」の低い質問

中学校3年生の質問事項に対する回答のうち、「肯定的回答」の占める割合（質問紙の選択肢のうち「よくある」と「時々ある」、もしくは「している」と「どちらかといえば、している」、あるいは「当てはまる」と「どちらかといえば、当てはまる」等の割合）が、75%未満の質問は、以下の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	肯定的 回答率
1	(25)	新聞を読んでいますか	17.5
2	(44)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	19.5
3	(24)	地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがあります	27.0
4	(32)	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	45.5
5	(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	50.5
6	(42)	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	52.0
7	(45)	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	54.0
8	(27)	数学の勉強は好きですか	55.5
9	(58)	調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）	58.5
10	(43)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	60.0
11	(13)	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	61.5
12	(21)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	66.0

13	(29)	数学の授業の内容はよく分かりますか	67.0
14	(53)	1, 2年生のときに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していたと思いますか	67.5
15	(34)	数学の授業で問題を解くとき, もっと簡単に解く方法がないか考えますか	71.5
16	(10)	家で, 自分で計画を立てて勉強をしていますか	71.5
17	(50)	理科の授業で, 観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	72.0
18	(48)	理科の授業では, 自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	72.0
19	(56)	調査問題の解答時間は十分でしたか (国語B)	72.5
20	(31)	数学の問題の解き方が分からないときは, 諦めずにいろいろな方法を考えますか	72.5
21	(38)	理科の勉強は好きですか	74.0

※ 全国との比較から

生徒質問紙調査のうち、全国の中学校3年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校3年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	全国比較
1	(14)	学校の授業時間以外に, 普段 (月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか (学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) ※2時間以上	-25.4
2	(58)	調査問題の解答時間は十分でしたか (数学B)	-15.0
3	(13)	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において, 教科書を使いながら学習していますか	-9.8
4	(56)	調査問題の解答時間は十分でしたか (国語B)	-9.7
5	(57)	調査問題の解答時間は十分でしたか (数学A)	-8.5
6	(55)	調査問題の解答時間は十分でしたか (国語A)	-8.1
7	(29)	数学の授業の内容はよく分かりますか	-4.0

※ 秋田県との比較から

生徒質問紙調査のうち、秋田県の中学校 3 年生の肯定的回答の割合と仙北市の中学校 3 年生の肯定的回答の割合を比較して、差が－3 ポイント以下のものは次の表のとおりである。

NO	質問 番号	質問事項	県比較
1	(14)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む） ※2 時間以上	-19.9
2	(13)	家で予習・復習やテスト勉強などの自学自習において、教科書を使いながら学習していますか	-13.3
3	(43)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	-11.7
4	(42)	理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	-11.6
5	(32)	数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか	-10.0
6	(29)	数学の授業の内容はよく分かりますか	-9.9
7	(21)	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	-8.6
8	(12)	家で、学校の授業の予習・復習をしていますか	-7.8
9	(48)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	-7.4
10	(55)	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語 A）	-7.3
11	(45)	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	-7.1
12	(39)	理科の勉強は大切だと思いますか	-7.0
13	(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	-7.0
14	(34)	数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか	-6.8
15	(57)	調査問題の解答時間は十分でしたか（数学 A）	-6.7
16	(50)	理科の授業で、観察や実験の進め方や考え方が間違っていないかを振り返って考えていますか	-6.4
17	(56)	調査問題の解答時間は十分でしたか（国語 B）	-6.2

18	(23)	地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか	-6.1
19	(44)	将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか	-6.1
20	(2)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	-5.9
21	(31)	数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか	-5.9
22	(52)	1, 2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか	-5.3
23	(58)	調査問題の解答時間は十分でしたか（数学B）	-5.1
24	(15)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く） ※1時間以上	-4.9
25	(54)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	-4.1
26	(25)	新聞を読んでいますか	-4.0
27	(27)	数学の勉強は好きですか	-3.9
28	(49)	理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか	-3.4
29	(38)	理科の勉強は好きですか	-3.4
30	(11)	家で、学校の宿題をしていますか	-3.3
31	(33)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	-3.1

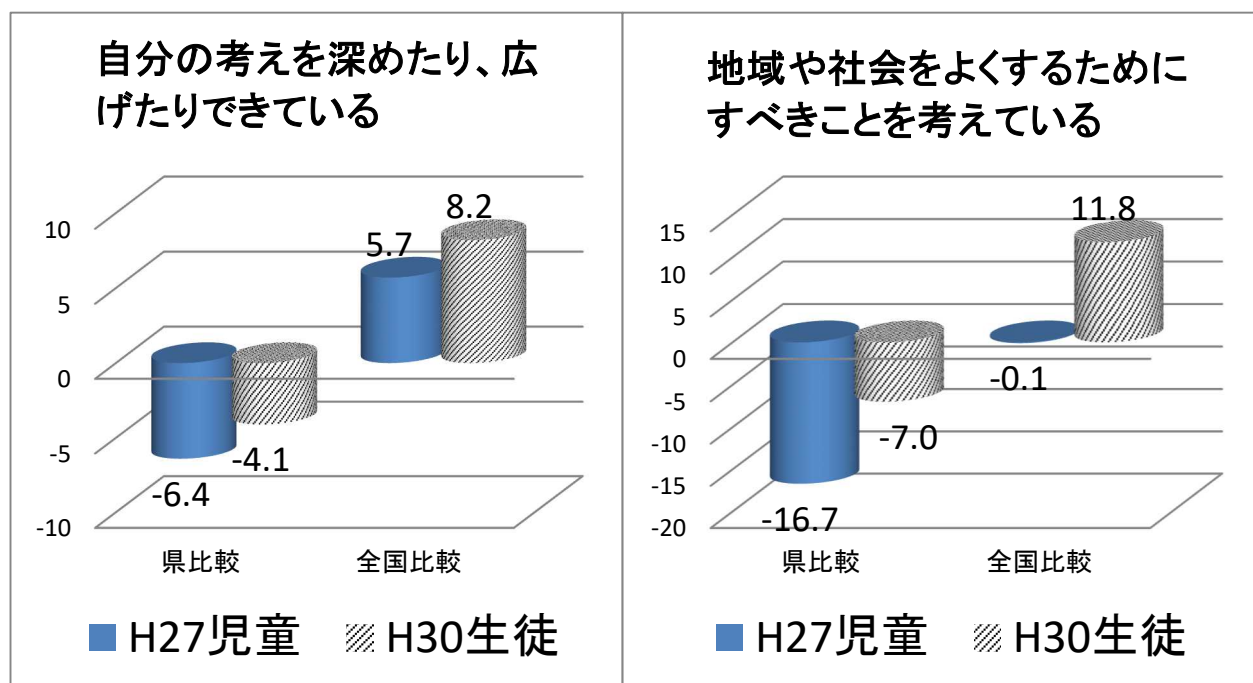
- ◆ 各教科で学習したことを、普段の生活の中で活用できるか考えることについて、課題が見られる。
- ◆ 新聞を読んでいる割合は、前年度と同様で低い、テレビやインターネットなどで、ニュースを見る割合が高く（質問紙での肯定的回答率 88.5%）、情報源が変化していることの表れとを感じる。その分、新聞を活用する活動等、学校で新聞に触れる機会を設けることが課題となる。
- ◆ 話し合う活動を、自分の考えを深めたり、広げたりすることに結び付けることが課題となる。
- ◆ 自分で計画を立てて学習をするなど、家庭学習の習慣は身に付いてきている様子が見られる。その反面、学習時間の短さが課題となる。

(6) 現中学校3年生の小学校6年生時との比較による成果

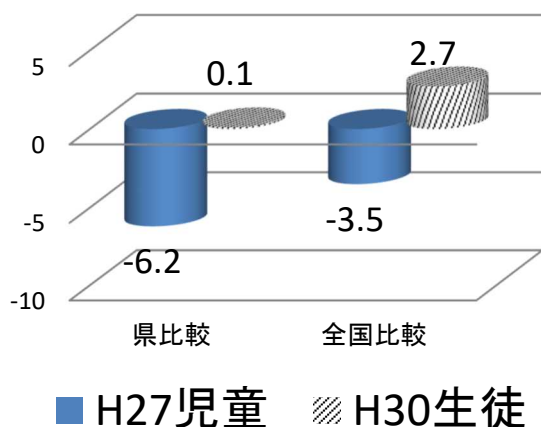
現中学校3年生の、小学校6年生時と比較した際に成果とみられる質問事項を以下に示す。肯定的回答率で上昇していることに加え、全国・秋田県との比較差でも、改善がみられる。

NO	質問番号	質問事項	H30生徒	H27児童	経年差
1	(54)	生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	84.5	72.6	11.9
2	(22)	地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	50.5	44.7	5.8
3	(9)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	93.0	87.5	5.5
4	(1)	自分には、よいところがあると思いますか	84.5	80.3	4.2
5	(4)	学校の規則を守っていますか	95.0	90.8	4.2
6	(6)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.5	95.2	2.3

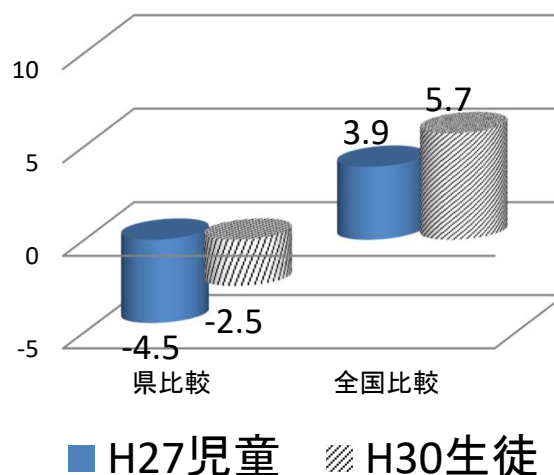
上記事項に関わる質問事項の秋田県や全国との比較での経年変化は次の通りである。



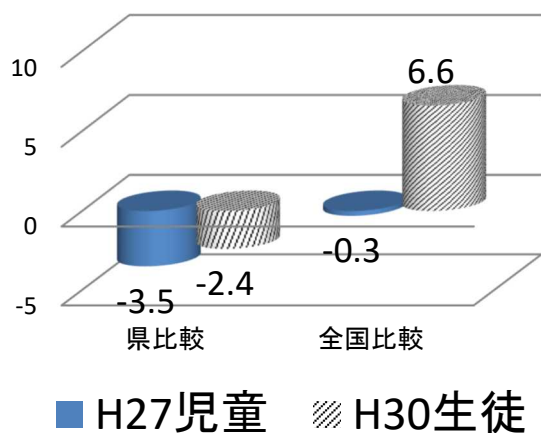
毎日、同じくらいの時間に起きている



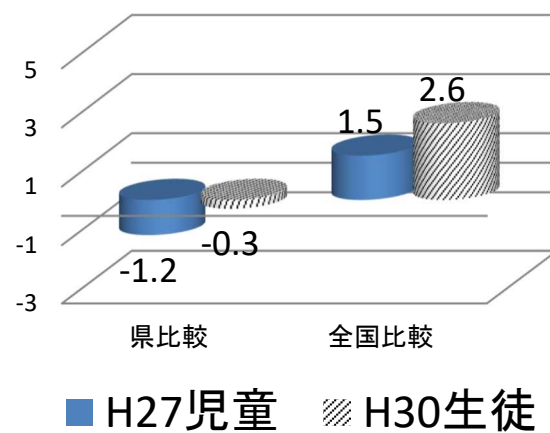
自分には、よいところがある



学校の規則を守っていますか



人の役に立つ人間になりたいと思う

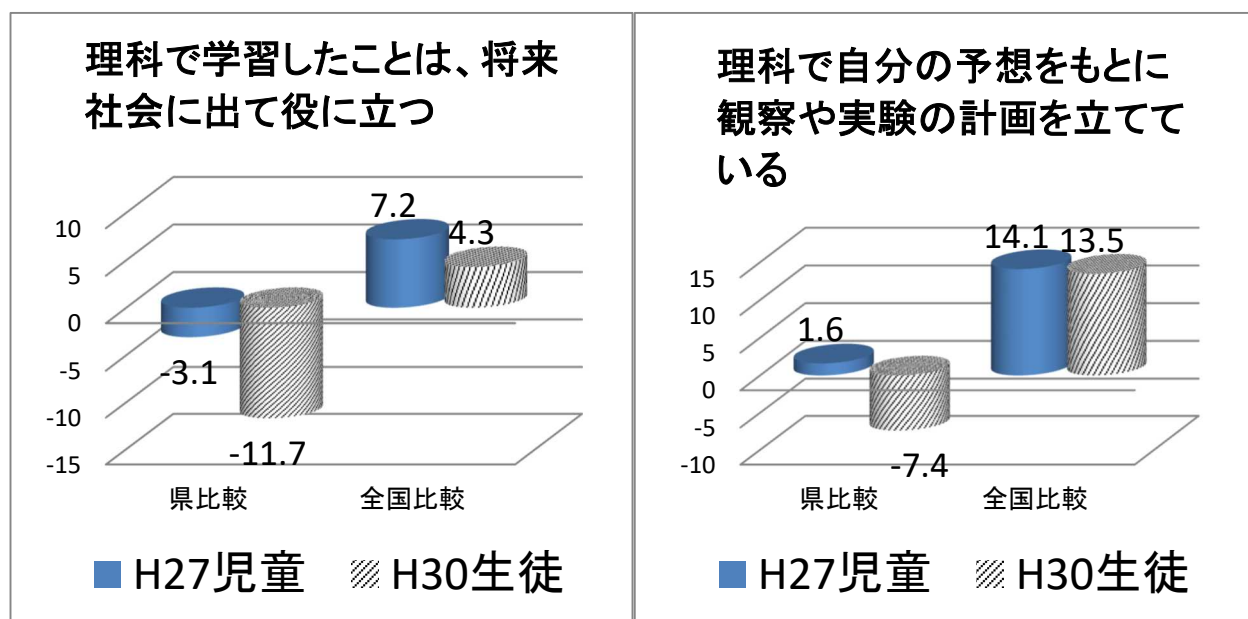


- 「自己肯定感」「生活習慣」「規範意識」に関わる意識の向上がみられる。学習指導に加え、生活指導の充実等、学校教育活動全体で生徒の成長が図られていることが読み取れる。
- 「地域や社会への参画意識」の高まりが見られる。各校でのふるさと教育の推進や、地域との連携、地域行事への参加等、地域と子供の結び付きの強まりが要因と感じられる。
- 学習活動や諸活動の中で、「対話的な活動」の機会が多く設定されていることが読み取れる。

(7) 現中学校3年生の小学校6年生時との比較による課題

中学校3年生の、小学校6年生時と比較した際に課題とみられる質問事項を以下に示す。これらの項目は、その開きが顕著なもの、また、秋田県との比較で開きがみられた項目を挙げる。

NO	質問 番号	質 問 事 項	H30 生徒	H27 児童	経年差
1	(45)	理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか	54.0	92.9	-38.9
2	(43)	理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	60.0	81.7	-21.7
3	(38)	理科の勉強は好きですか	74.0	93.7	-19.7
4	(48)	理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか	72.0	89.4	-17.4
5	(27)	数学（算数）の勉強は好きですか	55.5	70.7	-15.2
6	(29)	数学（算数）の授業の内容はよく分かりますか	67.0	81.7	-14.7
7	(3)	将来の夢や目標を持っていますか	79.0	90.9	-11.9

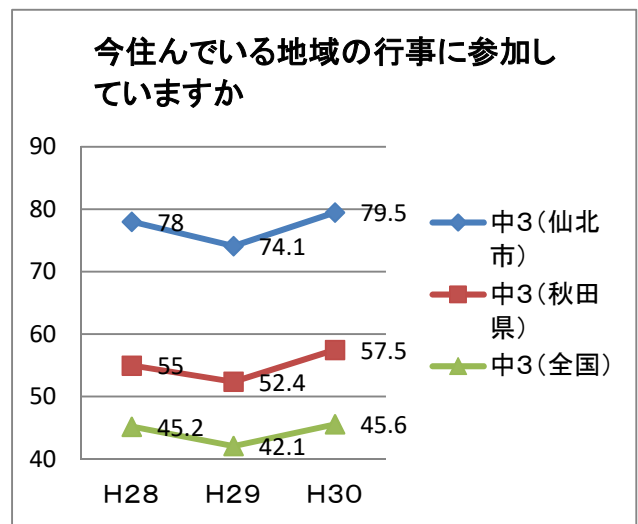
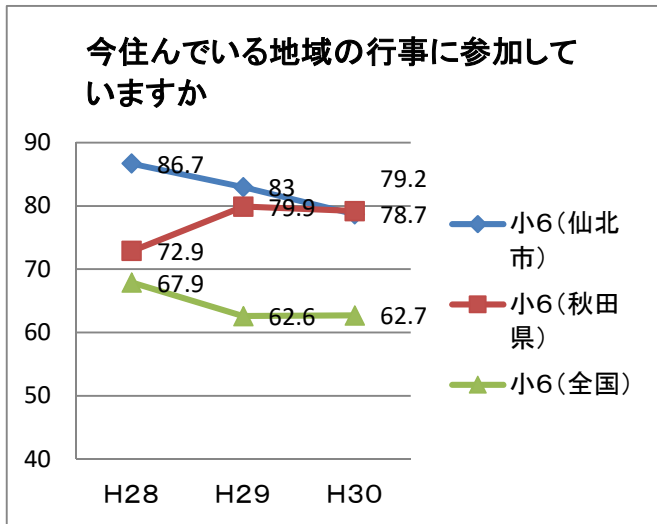


- 「主体的な学習活動の設定」「知識・技能の活用」に課題が見られた。更なる授業改善を図るとともに、身に付けた知識・技能を活用できる教科横断的な視点での学習活動の設定が望まれる。
- 「将来の夢や目標を持つ」ことに課題が見られた。キャリア教育の更なる推進が今後の課題となる。

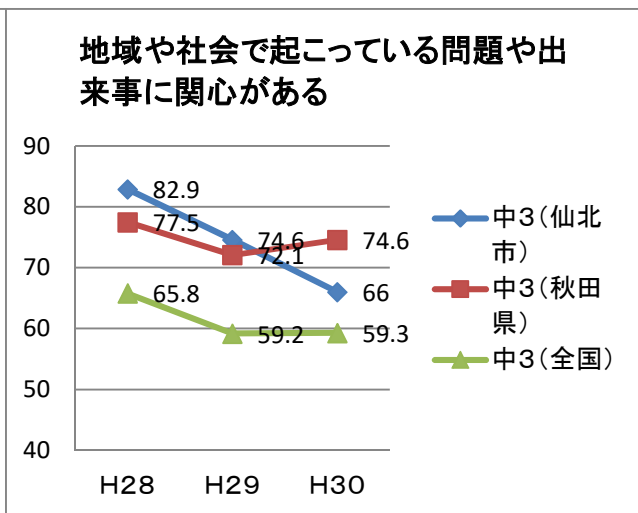
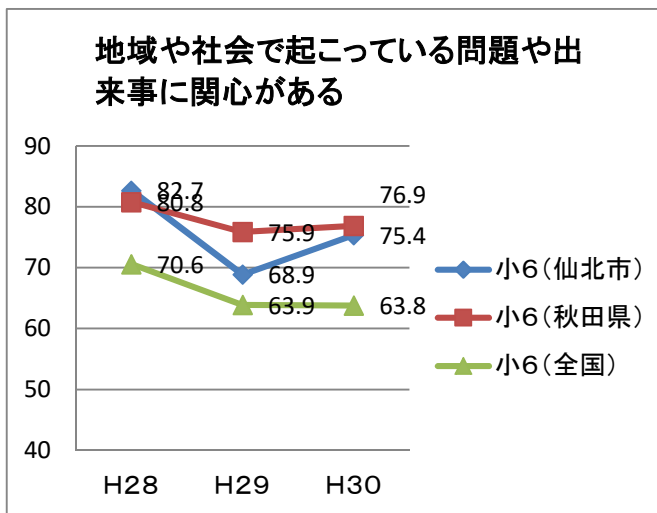
(8) 仙北市の目指す子ども像に関わる3年間の比較

① ふるさとを愛する気持ちをもつ

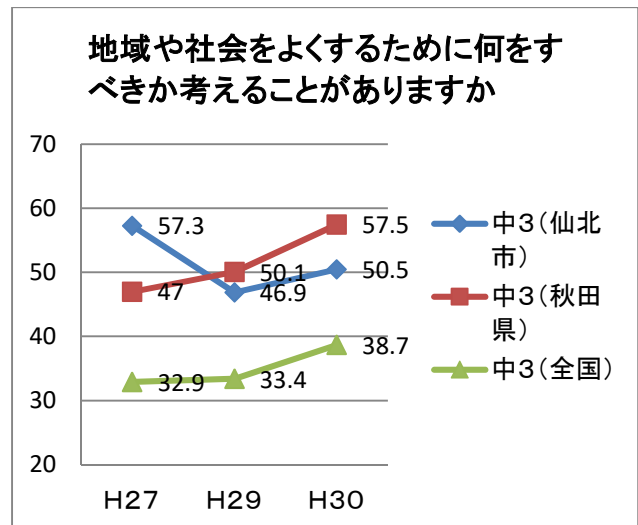
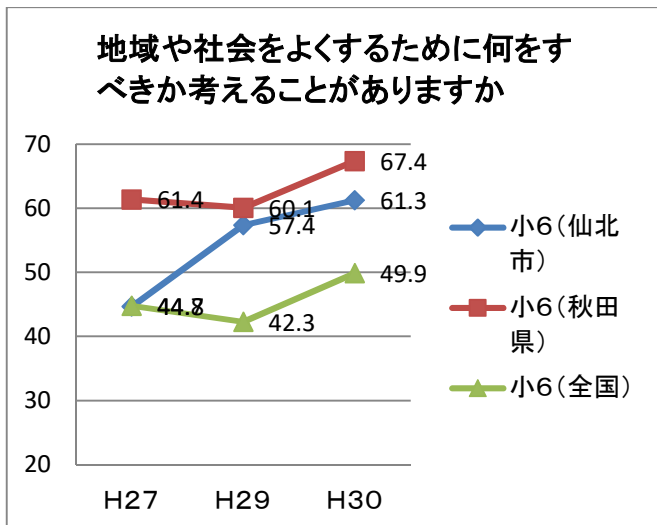
○ 今住んでいる地域の行事に参加していますか



○ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか

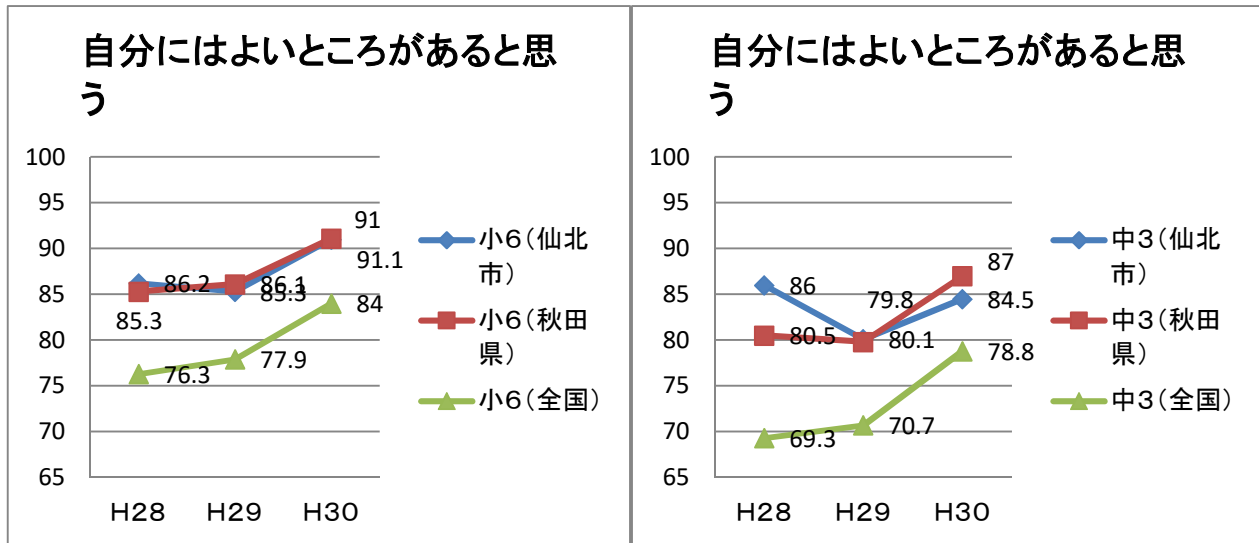


○ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることはありますか

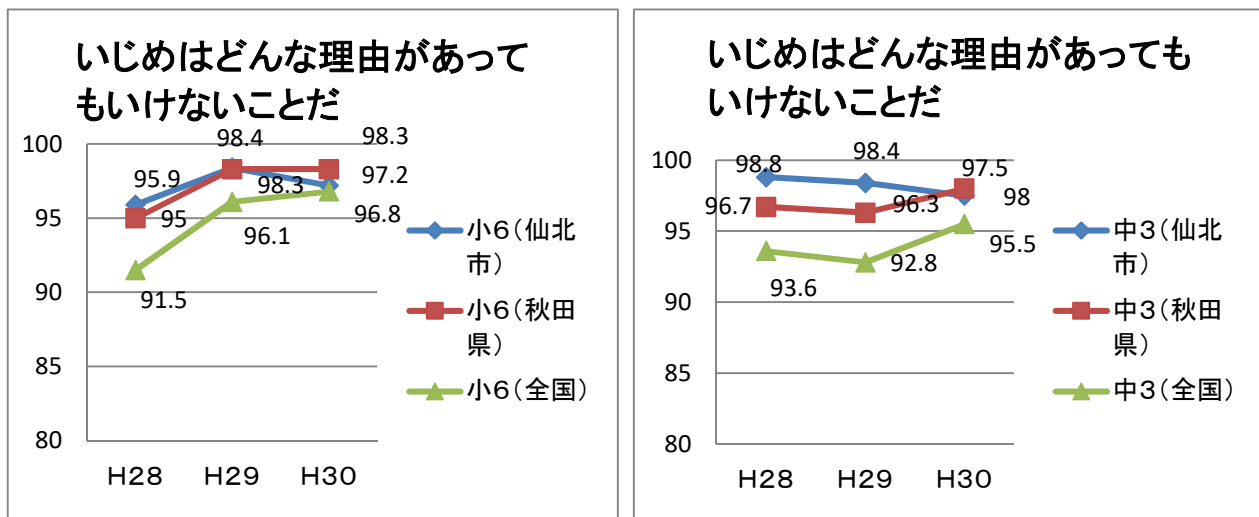


② 豊かな心をもつ

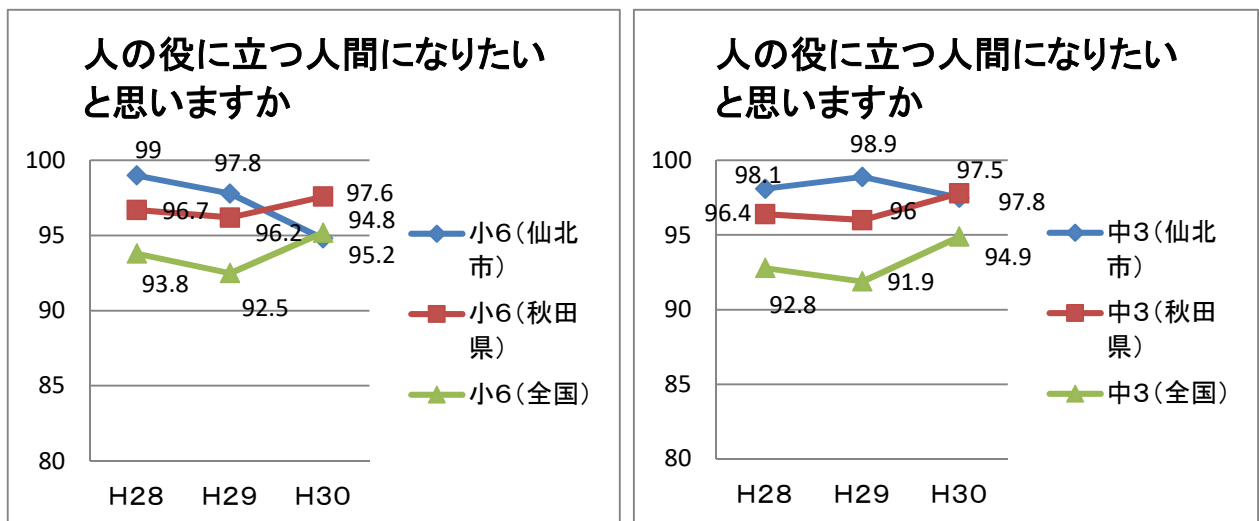
○ 自分には、よいところがあると思いますか



○ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

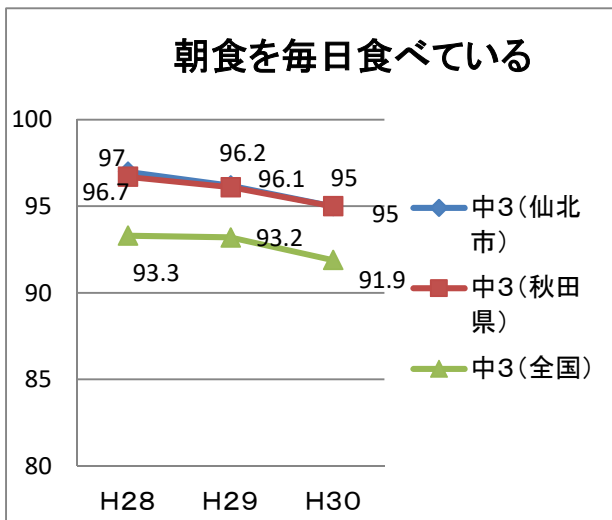
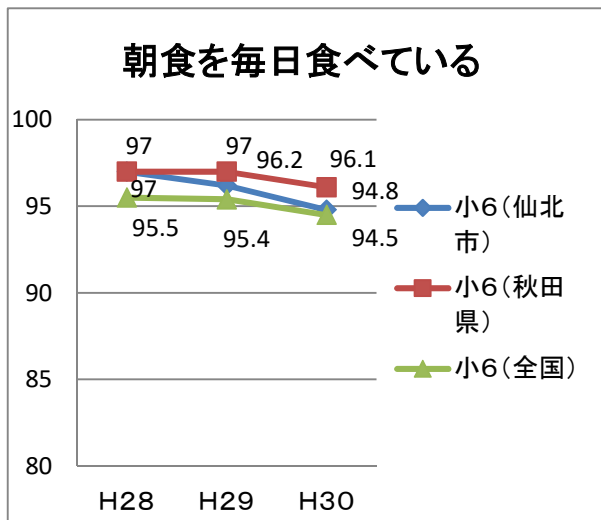


○ 人の役に立つ人間になりたいと思いますか

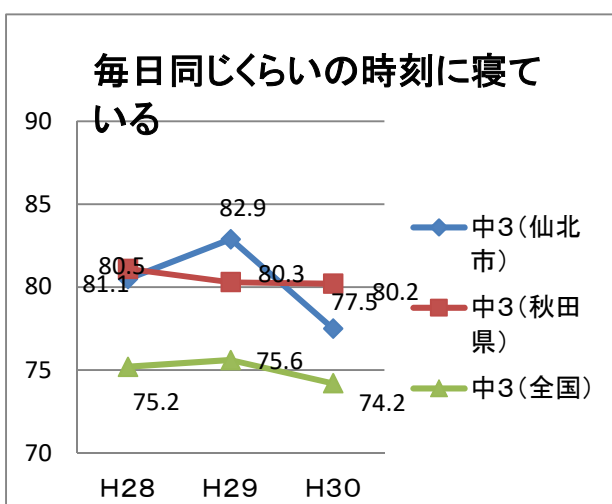
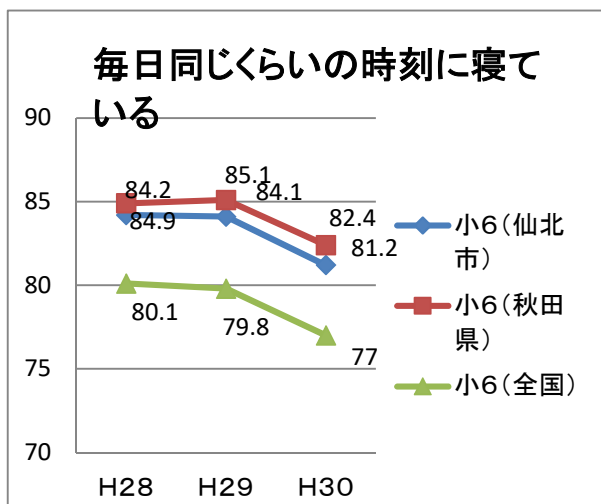


③ 健やかな体をもつ

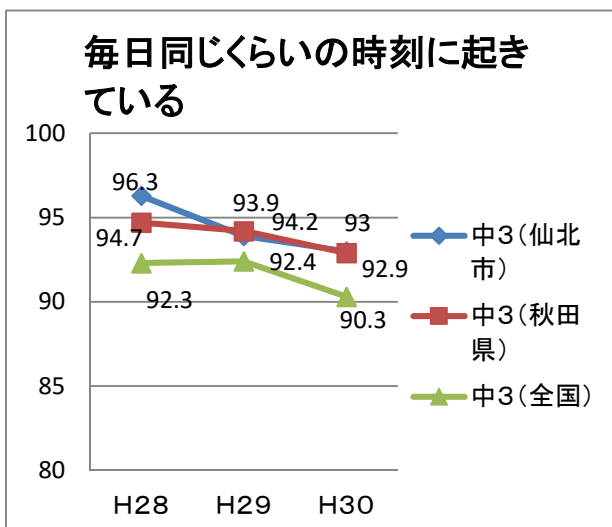
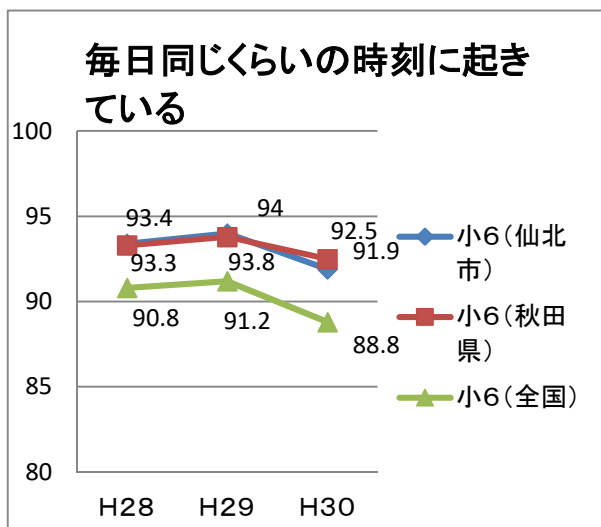
○ 朝食を毎日食べていますか



○ 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか

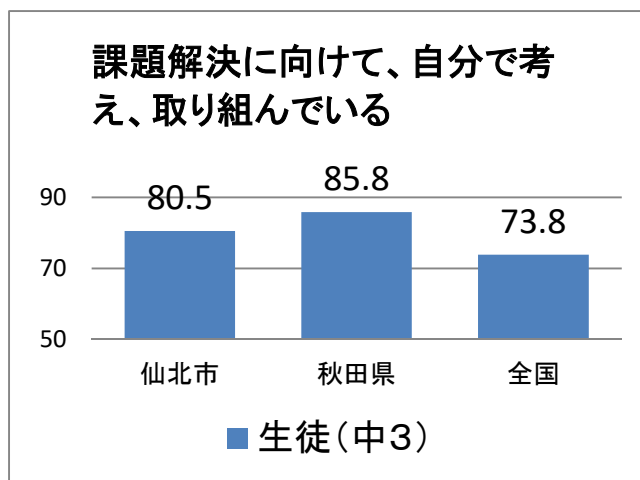
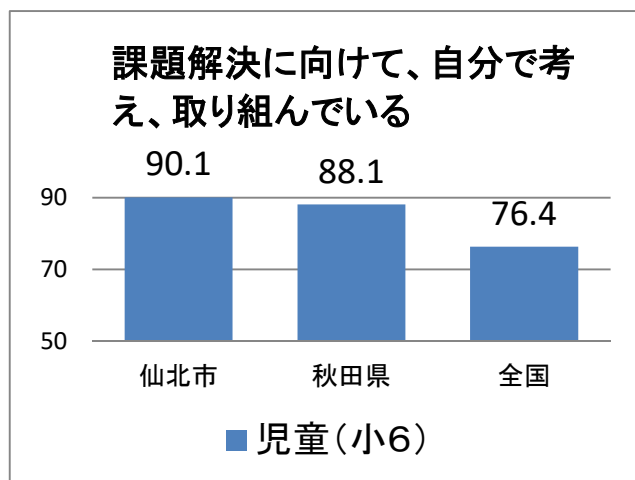


○ 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか

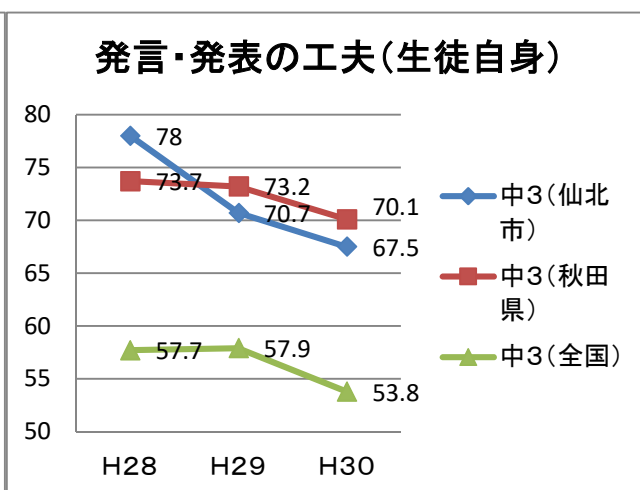
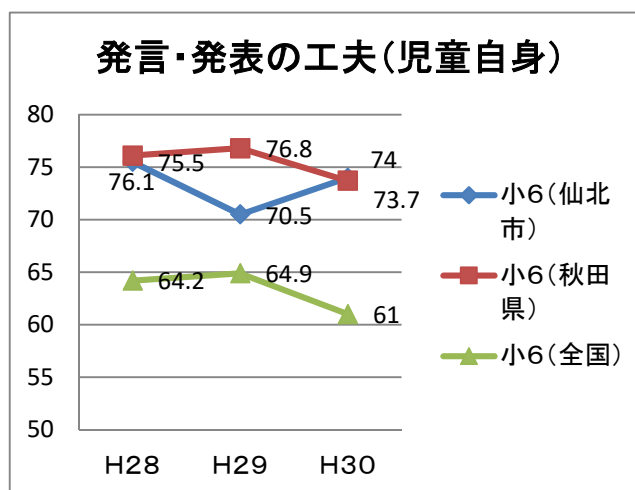


④ 確かな学力を身に付ける主体的な姿勢

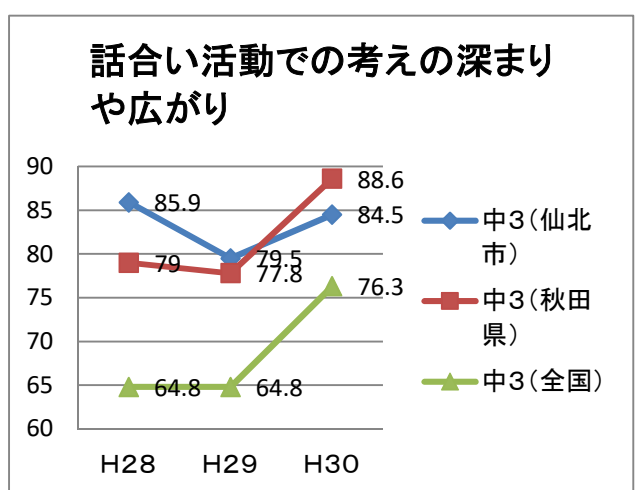
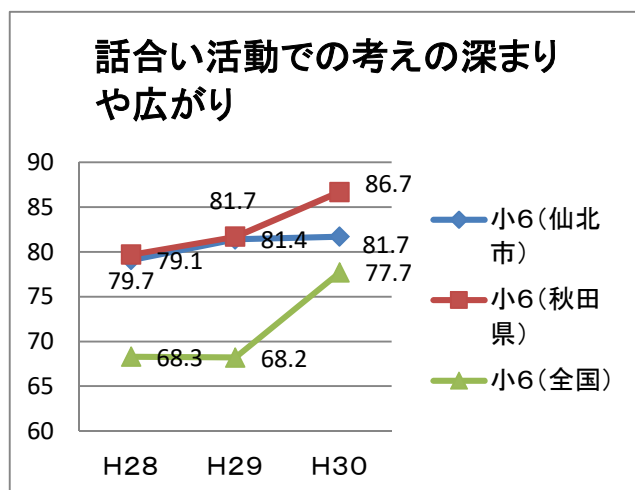
- 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。(今年度からの質問事項)



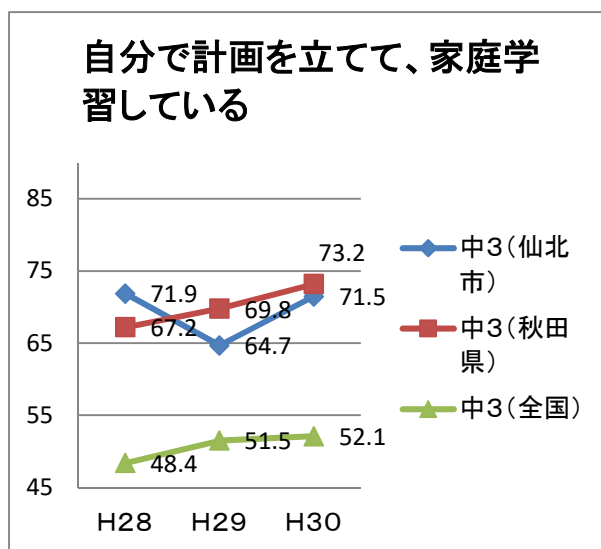
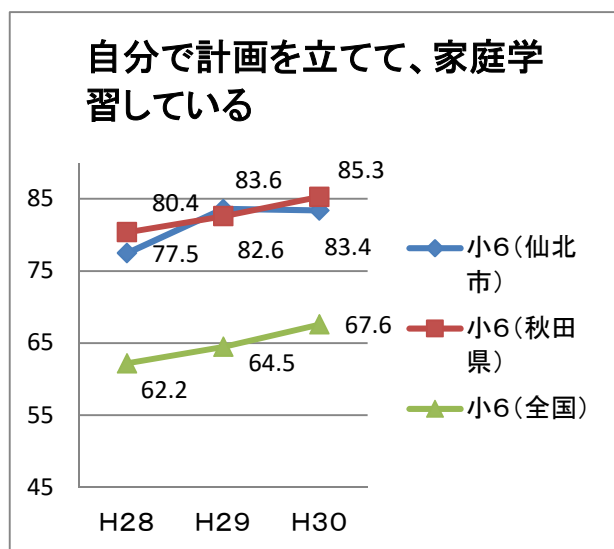
- 前年度まで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話しの組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。



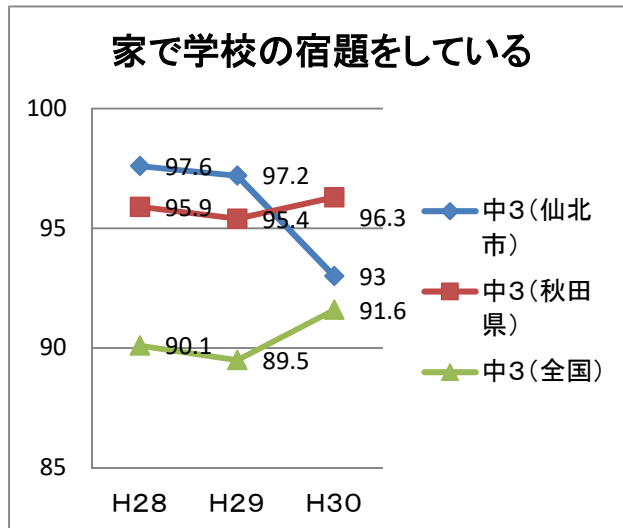
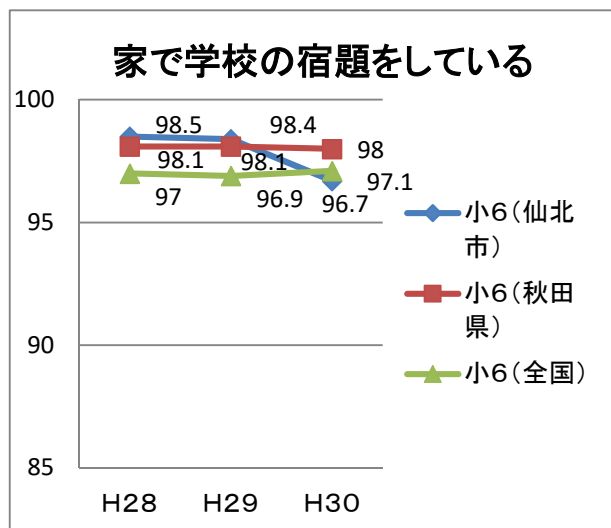
- 学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



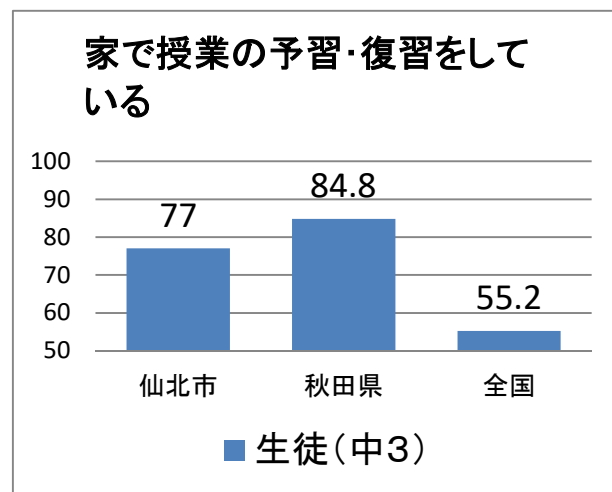
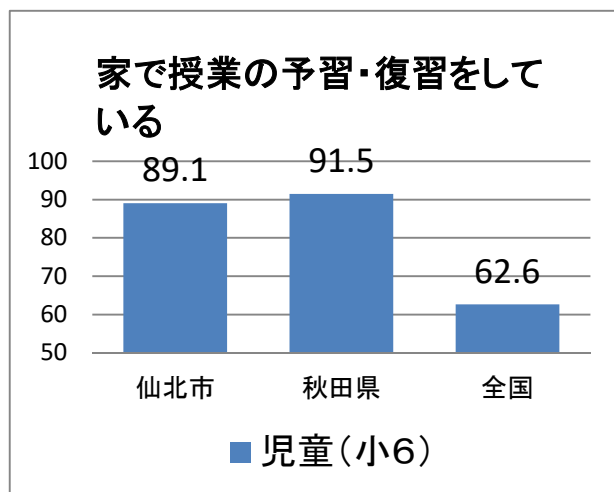
○ 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



○ 家で、学校の宿題をしていますか



○ 家で、学校の予習・復習をしていますか（今年度からの質問事項）



3 学校質問紙調査の結果

(1) 概要

本調査における学校質問紙調査について、仙北市の学校教育の重点、確かな学力の向上に向けて全学校一致で取り組むべき具体方策に関わる、特に顕著な項目を示す。

主だった項目として、「主体的・対話的で深い学びに結ぶ付く探究型授業の充実」「キャリア教育の視点を重視したふるさと教育の充実」「家庭学習の充実を図る指導」、そして「全国学力・学習状況調査結果の活用」等が、全国及び秋田県の状況と比較し、取り組んでいる学校の割合が高い。

また、小・中学校の連携に関わる項目に今後の検討課題と考えられる項目がみられた。

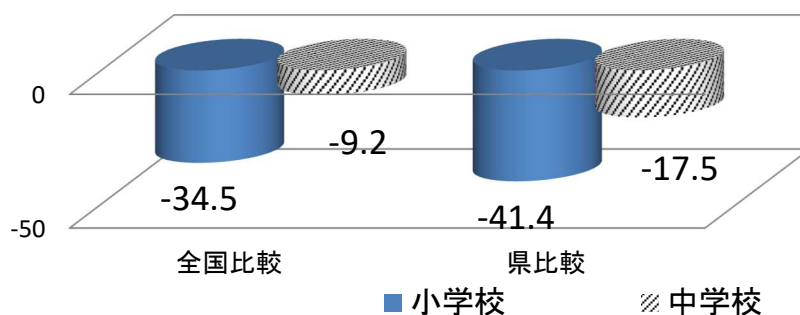
なお、校種別に全国との差の大きい5項目を今後の検討課題として挙げている。

(2) 小・中学校で積極的に取り組んでいる仙北市の学校教育の重点に関わる項目

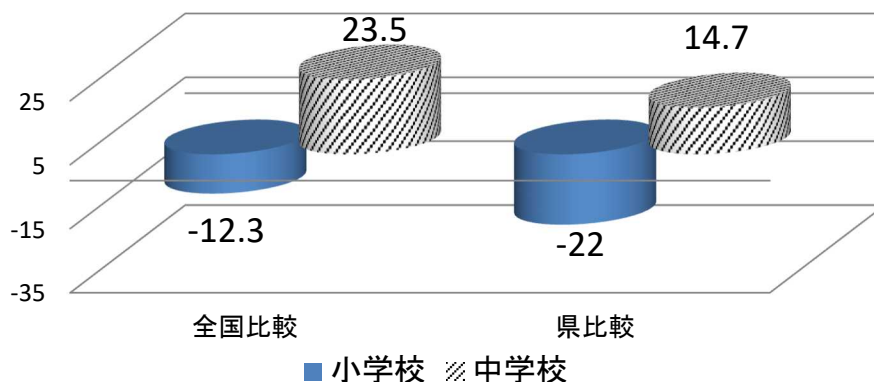
質問事項	小学校		中学校	
	国比較	県比較	国比較	県比較
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	7.0	3.6	7.4	2.4
前年度に、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	10.3	5.0	16.4	4.3
前年度までに、授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか	13.8	5.6	20.2	10.3
前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	16.7	5.5	1.4	0.0
前年度までに、家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか (国語／算数共通)	6.7	1.5	9.8	1.7
平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	2.4	1.0	3.9	1.7
平成29年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明を行いましたか (学校のホームページや学校だより等への掲載、保護者会等での説明を含む)	7.7	3.0	11.5	9.5
全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	5.6	1.5	8.2	2.6

(3) 小・中学校の連携に関わる項目

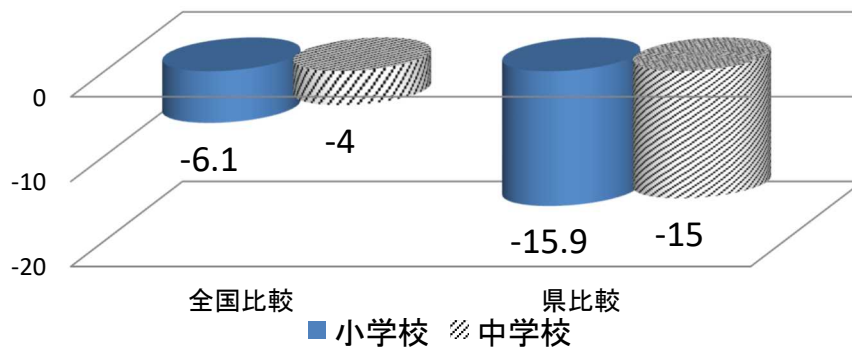
近隣の中(小)学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。



前年度までに、近隣等の中(小)学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。



今年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中(小)学校と成果や課題を共有しましたか。



(4) 今後の検討課題と考えられる項目

① 小学校での検討課題と考えられる項目（全国との差が大きい5項目）

質 問 事 項	国比較	県比較
算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-50.2	-48.6
学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか	-36.8	-22.5
算数の授業において、前年度に、習熟の遅いグループに対して少人数による指導を行い、習得できるようにしましたか	-35.2	-25.4
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	-29.9	-28.6
理科の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか	-27.9	-28.2

② 中学校での検討課題と考えられる項目（全国との差が大きい5項目）

質 問 事 項	国比較	県比較
前年度までに、ボランティア等による授業サポート（補助）を行いましたか	-33.0	-21.6
理科の指導として、前年度までに、長期休業期間中に自由研究などの家庭学習の課題を与えましたか	-21.1	17.7
地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか	-20.7	-30.7
理科の指導として、前年度までに、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか	-16.6	-9.0
生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	-14.6	-16.5

Ⅳ 改善の方法

1 全体的な取組として

本委員会では、仙北市全体の状況を踏まえて、一層の確かな学力の向上と授業改善の方向性について、現在仙北市内の各学校で取り組んでいる改善策をもとに意見交換を行った。

教科に関する本調査の結果で、仙北市の課題として捉えられ改善のために検討の余地があるものを見たとき、仙北市児童生徒の課題は次のように集約することができる。

国語に関しては、「読むこと」の領域に課題が見られる。小学校6年国語Aの「登場人物の心情について、情景描写を基に捉える」、中学校3年国語Bの「登場人物の言動の意味などを考え、内容の理解に役立てる」に課題が見られたが、発達段階に即し、系統的に読みの指導を進めていく必要性が表れた結果と言える。また、中学校の3年国語Aの「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う」という課題の改善に向けて、語句の意味を辞書や資料集などを用いて確認するだけでなく、話や文章の中で実際に使用し、語彙を豊かにする取組を小中通じて、系統的・段階的に行うことが求められる。

算数に関しては、「数量関係」の領域に課題が見られる。各設問の集計結果で課題として取り上げた4つの設問のうち、算数Aの設問8、また算数Bの設問2（1）、3（1）は「数量関係」に関する出題である。また、もう一つ課題として取り上げた算数Aの設問2も、「数と計算」の領域に関する出題だが、小数の除法の意味を理解することに加え、数量の関係を的確に捉え、立式する力が求められた。数量関係を考察する力の育成を図ることは、中学校数学の集計結果で課題として挙げられた「関数」や「資料の活用」の領域の課題解決に結び付く取組と言える。数学に関しては、先述の「関数」「資料の活用」に「数と式」「図形」を加えた全領域に課題が見られる。確実に計算できることや比例定数の意味を理解できるようにするなど、基礎的・基本的な知識・技能の習得が必要である。特に「資料の活用」の領域に課題が見られ、与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができるように指導することが求められる。その中で、数学Bの設問5（1）は、百分率について理解していることを前提とし、活用する力を求められた出題である。小学校算数Aで課題として取り上げた設問8も百分率の理解に関する出題であり、小中共通の課題と言える。

理科に関しては、小学校では、集計結果で取り上げた4つの設問全てが「主として『活用』に関する問題」だった。「予想の段階で実験結果に見通しをもつこと」「考察の段階で妥当な考え方に修正すること」といった思考力を育てる指導の充実が求められる。また、中学校では、「事象変化に関わる条件を予想したり、探し出したりする」思考力の育成を図る指導に加え、「公式に当てはめて、値を算出する」といった基礎的・基本的な知識・技能の習得を図る指導の充実も求められる。

これらの現状を踏まえ、それぞれの部会で授業における指導の改善点及び学力向上の具体的方策に係る改善点を検討した。

ここでは、学力向上の具体的方策に係る課題について、各部会から出された改善点を以下に示す。

1 今年度の具体的方策への取組から

今年度、仙北市学力向上施策として示した具体的方策は次の通りである。

- (1)児童生徒の姿から、身に付けさせたい力を明確にした単元構成による授業の推進
- (2)思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫
- (3)児童生徒の問いを生かした探究型授業の一層の推進
- (4)基礎・基本の定着を図る指導方法や指導体制の工夫
- (5)基本的生活習慣の更なる改善と家庭学習の充実

この5つの方策について、各校の取組状況を集約し、「小学校国語部会」「中学校国語部会」「小学校算数部会」「中学校数学部会」「小学校理科部会」「中学校理科部会」「小学校研究主任部会」「中学校研究主任部会」で話し合われた。

その際に、(2)について「中学校数学部会」「小学校理科部会」「中学校理科部会」「小学校研究主任部会」、(3)について「小学校国語部会」「中学校国語部会」、(4)について「小学校算数部会」「中学校数学部会」、(5)について「小学校研究主任部会」「中学校研究主任部会」から改善策が出された。

それぞれの部会で、出された各校の取組を整理し、改善策を以下に示す。

※以下の○印は今年度の各校の取組、 枠の◆印は各部会で出された改善策案

- (1) 児童生徒の姿から、身に付けさせたい力を明確にした単元構成による授業の推進
 - 児童生徒の実態を把握した上で、目標を明確にし、全員が分かる単元構成をした。
 - 児童生徒自身が身に付いた力を実感できる授業展開を構想した。
 - 授業の流れ、思考の過程、現在の活動が分かるように板書の構造化を図った。
 - 振り返りの視点を示すことで、児童生徒自身が身に付いた力を実感し、次の学習活動に見通しや意欲をもてるように、振り返りの充実を図った。
- (2) 思考を広げ、深めることのできる言語活動の工夫
 - 単元で身に付けさせたい資質・能力の育成に結び付く言語活動を設定した。
 - 考えをつなぎ、伝え合う活動を全教科で繰り返し行い、話合いの基本の定着を図った。
 - 言語活動の目的に応じて、適切な学習形態を工夫した。
 - ホワイトボード、黒画用紙、付箋等、多様な思考ツールを活用し、論点や思考の整理を図った。
 - 言語活動の充実に焦点化した研究授業を実施し、全職員での共通意識を図った。

＜各部会で案として出された改善策＞

- ◆ 自分の考えをもって話合いに参加できるように、個で考える時間を確保する。
- ◆ 話合いが深まり、ねらいに結び付くように、話合いの焦点化を図る。
- ◆ 個の考えや問いを生かした話合いの場面を設定する。
- ◆ 目的を達成するために効果的な学習形態を工夫する。(ペア、トリオ、小グループ等)

- ◆ 思考の過程や論点を整理する思考ツールを活用する。
- ◆ 課題に対してのまとめを生徒自身の言葉で発表させ、互いの考えの共有化を図る。
- ◆ 全教科を通して、根拠を明確にして発表したり、まとめたりする機会を設定し、話す力、書く力の育成を図る。
- ◆ 単元の振り返りの段階で、生活とのつながりを考える場を設定する。

(3) 児童生徒の問いを生かした探究型授業の一層の推進

- 校内研修等で、探究型授業への全職員での共通理解を図り、指導に当たった。
- 学習の見通しをもつ段階で、児童の疑問や気付きを引き出し、学習課題を設定した。
- 振り返りとの整合性を図った、めあてや学習課題を提示した。
- 各学習のプロセスで効率化や充実が図られるよう、ICT機器等を有効活用した。

<各部会で案として出された改善策>

- ◆ 子どもの思いやつぶやきを生かし、単元計画を立て、学習課題を設定する。
- ◆ 児童生徒が自分自身、周囲の人、教科書や資料等との対話を通して、考えを広げたり、深めたりできるよう授業を構成する。

(4) 基礎・基本の定着を図る指導方法や指導体制の工夫

- 習熟度別学習等、TTを効果的に活用し、個に応じた指導を図った。
- 言葉を正確に理解するため、辞典を積極的に活用した。
- 各教科の基礎・基本の定着の度合いをつかむため、基礎テストを定期的実施した。
- スモールステップでの学習を積み重ね、着実な定着を図った。

<各部会で案として出された改善策>

- ◆ 個の課題に応じた基礎・基本事項の習熟を図る時間を設定する。

(5) 基本的生活習慣の更なる改善と家庭学習の充実

- 校種間での連携や家庭との連携を図ったノート指導を行った。
- ノート展示コーナーを設置し、家庭学習の内容の充実を図った。
- 各家庭との連携や周知を図るため、家庭学習だよりを配付した。
- 家庭学習への必要感をもたせるよう、家庭学習の内容を授業と関連付けた。
- 計画的に取り組めるよう、家庭学習の計画を立てさせた。

＜各部会で案として出された改善策＞

- ◆ 小・中学校及び同一校種間での情報交換の場を設定し、効果的な指導を図る。
- ◆ 通信等を通して、更に各家庭との連携を推進する。
- ◆ アウトメディア期間を設定し、家庭学習の時間を確保する。
- ◆ 継続的に取り組めるよう学習計画を立てさせ、必要に応じて修正させる。
- ◆ 本人に課題意識をもたせられるよう、個に応じた指導を行う。

2 各中学校区の情報交換から

本調査で表れた各校の課題及びその改善に向けた取組について、中学校区毎に情報交換を行った。その際に、一層の学力向上を図るためにも、「同中学校区の児童生徒に共通する課題に対し、小中で連携して育成を図りたい」等、小中連携の必要性に関わる意見が多く出された。

3 共通実践すべき具体的方策

先述の「今年度の具体的方策への取組」「各中学校区の情報交換」、そして、児童生徒質問紙及び学校質問紙での課題を踏まえ、仙北市内小中学校で共通理解の上で共通実践すべき方策を

「『校種』を超えた小・中連携による共同研究の推進」

とし、同一中学校区での研修や研究、情報交換等による義務教育9年間の系統的・段階的な指導の更なる充実を目指したい。

また、その取組の具体例を以下に示す。

「校種」を超えた小・中連携による共同研究・共通実践の具体例

- 諸調査の分析結果等、児童生徒の実態の共有に関わること
 - ・ 共通の研究視点での合同研修・授業研究会
 - ・ 基礎的・基本的知識・技能の定着
- 9年間を見通した教育課程の編成に関わること
 - ・ 各教科の系統的・段階的な目標設定
 - ・ 言語活動の充実、言語環境の整備等による言語能力の育成
 - ・ 学習習慣・学習規律の確立

同一中学校区では、「いつ、誰が、どこ」の授業を見ても、「共通で目指す子どもの姿」が分かる授業、「共通で取り組んでいること」が分かる授業を目指し、小・中学校が一体となって取り組んでいきたい。

2 学年・教科・区分・各設問ごとの具体的な改善の方策

学年・教科・区分について各設問ごとの結果から改善のために検討の余地があるものについては、次の資料の活用を充実させる必要がある。

- 「平成30年度学校改善支援プラン」〈平成30年3月 秋田県検証改善委員会〉
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査【小学校国語】報告書」
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査【小学校算数】報告書」
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査【小学校理科】報告書」
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査【中学校国語】報告書」
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査【中学校数学】報告書」
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査【中学校理科】報告書」
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査【質問紙調査】報告書」
〈平成30年7月 文部科学省 国立教育政策研究所〉
- 「平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例」
【小学校国語・算数・理科】
【中学校国語・数学・理科】
〈平成30年9月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
- 「全国学力・学習状況調査の4年間の調査結果から今後の取組が期待される内容のまとめ～児童生徒への学習指導の改善・充実に向けて～」
【小学校編】 〈平成24年9月 文部科学省
国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
【中学校編】 〈平成24年9月 文部科学省
国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
- 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力・判断力・表現力の育成に向けて～」
【小学校版】 〈平成22年12月 文部科学省〉
【中学校版】 〈平成23年 5月 文部科学省〉
- 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（小学校・各教科）」
〈平成23年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉
- 「評価規準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（中学校・各教科）」
〈平成23年11月 国立教育政策研究所教育課程研究センター〉

3 改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について

1 地域の人材活用と財政的支援

仙北市教育委員会は学校における地域人材等の活用及び特色ある取組について、一層の支援を行う必要がある。

本市教委では平成20年度から「学校教育バックアップ事業」を開始し、市内の各小・中学校で教育支援活動をしている地域住民を「バックアップチーム」として登録し支援している。今後も小・中学校において、授業場面での活用や授業サポートとしての活用を行い、事業を充実させていく。

また、平成25年度からは、各学校の特色ある「ふるさと教育・キャリア教育を推進する取組」や教材の充実に対し一層の財政的な支援も実施している。平成26年8月には「キャリア教育の視点を重視したふるさと教育」指導資料として冊子「ふるさと仙北学」を発行、各校に配布した。平成27年12月同冊子を増刷し、各校に配布した。ふるさと教育を基盤とした取組の充実が児童・生徒の生きる力、地域社会における自己有用感の育成につながるようさらに働きかけていく。

さらに、平成28年度からは、「ドローン学習研究事業」を開始し、ドローンを用いたロボットプログラミング学習を中核とした、小学校における先進的な取組を推進し、科学的思考力・判断力・実践力と論理的思考の向上を図っていく。

2 北浦教育文化研究所研究委員会の充実について

上記Ⅳ－2の各種資料については、各学校の研修における活用とともに、研究委員会での研修内容として取り組むことが必要と考える。研究委員会の組織の見直しと併せ、各校の充実した取組に効果のある研究委員会の開催を目指す。

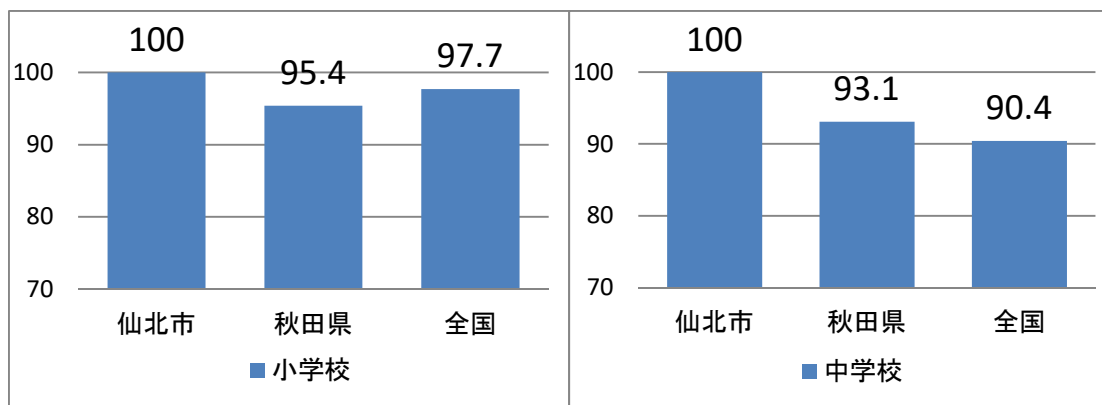
4 学校・家庭・地域の一層の連携

先述の児童生徒質問紙調査の結果から、各校の取組により、「自己肯定感」「地域社会への参画意識」「確かな学力」等の育成が図られ、教育成果が表れていることがうかがえる。

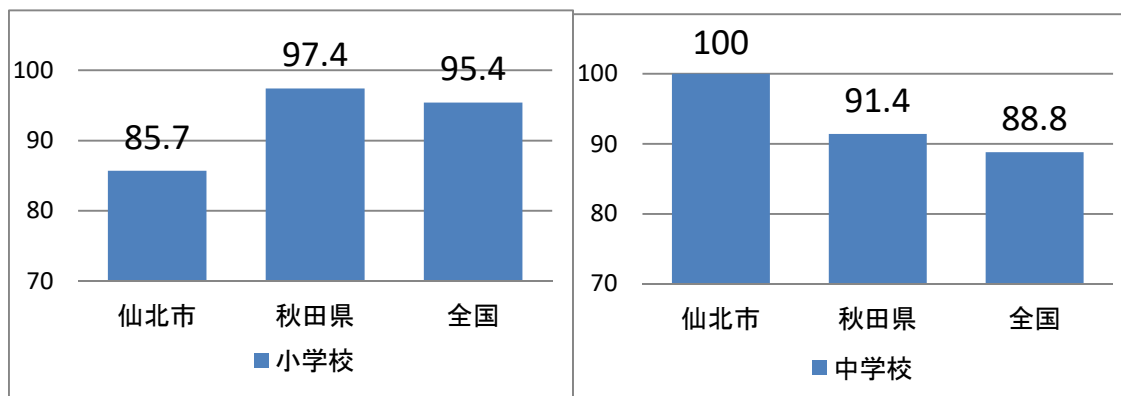
その根底には、「基本的な生活習慣」「規範意識」「基本的な学習習慣」という基盤づくりを、学校・家庭・地域の連携の下で行われていることが仙北市の強みと言える。

更に、一層の連携を進めていくため、次の学校質問紙調査の集計結果を挙げたい。

- 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか



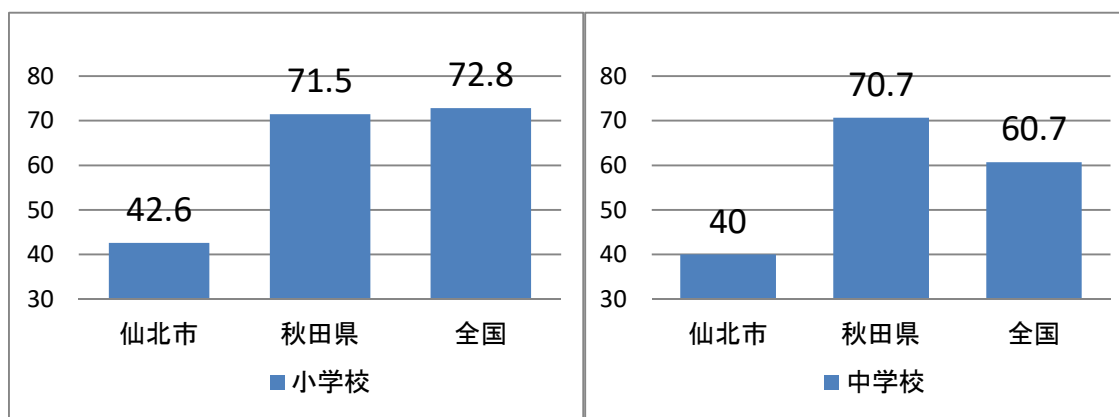
- 上記のような保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果がありましたか



仙北市内全小・中学校で、保護者や地域の人との協働による取組が行われ、その教育効果を感じている学校が多くあるが、まだ、効果を実感できていない学校もある。

また、次のような集計結果も見られる。

- 地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、上記のような保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか



ここから、保護者や地域の人との協働による取組は行われてはいるものの、それぞれの活動の連動や仕組みづくりには結び付いていないことが分かる。

学校の児童生徒や地域の実情を踏まえ、仕組みづくりや体制づくりを整備することは、学校・家庭・地域の連携を一層推進し、子どもの成長を継続的に支える一つの視点と考えられる。望ましい学校・教育環境を構築し、地域社会の発展に寄与することが出来る人材の育成を図る上での検討課題と言える。

学校ではこれまで同様に、授業を核として、家庭学習や長期休業中の学習、学校の始業前や放課後の学習が関連し合い、児童生徒の学びを習慣化する「学びのサイクルの習慣化」を働きかけてほしい。児童生徒の自覚を促すとともに、家庭への働きかけが重要となる。学校質問紙の結果では、「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか」という質問事項には、仙北市内全小・中学校で行われているという回答だった。

(全国比較：小学校＋２．８％、中学校＋８．１％)

家庭では子どもの基本的な生活習慣や学習習慣などに関心をもち、子どものよき成長を願い、学校と協力して家庭教育を充実させていこうとする姿勢が望まれる。特に情報モラルに関わる約束事の確認等、家庭での子どもへの関わり方が学校生活のみならず、日常生活や今後の社会生活に大きく影響を及ぼすことについての理解が必要である。児童生徒の就寝までの限られた時間の中で、家族の一員としての役割を果たし、家族とのコミュニケーションを意義あるものにしながら学習時間を確保できるようにしたいものである。

子どもたちの地域への愛着の深さには、地域住民の支えが大きく影響していると考えられる。これまで以上に学校・家庭・地域の連携を深め、望ましい地域社会の発展とともに温かな家庭環境や居心地のよい学校・教育環境を構築し、地域・社会に貢献できる人間の育成を図りたい。

資料 1

「全国学力・学習状況調査」結果取扱要綱

平成19年12月20日

教育委員会告示第19号

最終改正 平成26年11月教育委員会告示第25号

(目的)

第1条 この要綱は、文部科学省が実施する「全国学力・学習状況調査」（以下「本調査」という。）の仙北市及び仙北市立小・中学校の調査結果について文部科学省から提供される情報（以下「結果」という。）の取扱について必要な事項を定めることを目的とする。

(結果の公表)

第2条 仙北市教育委員会は公立学校設置管理者として地域住民及び保護者に対して結果についての説明責任があることから、次のことに配慮しながら本調査の結果を公表する。

- (1) 教科に関する調査結果の数値による公表や、個々の学校名を明らかにした公表など、結果の公表が学校間の序列化や過度な競争につながるような公表は行わないこと
- (2) 本調査の結果から教育及び教育施策の成果と課題を把握しその改善を図る必要があること
- (3) 本調査の結果の分析を踏まえて仙北市教育委員会として今後の改善方策を併せて示す必要があること
- (4) 本調査により測定した学力は特定の一部であること
- (5) 本調査により測定した学力は固定値ではなく変化するものであること

(結果の公表の内容)

第3条 文部科学省が市町村教育委員会に提供する結果の資料（別表1）について、公表に係る取扱は次の通りとする。

- (1) 「1」の公表については、国及び県の平均正答率と比較して（別表2）の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を（別表2）の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係についても併せて公表する。平均正答率の比較以外の結果は公表しない。
- (2) 「2」の公表については、「学習指導要領の領域別」「評価の観点別」「問題形式別」に国及び県の平均正答率と比較して（別表2）の「階層区分」によりそれぞれの比較結果を（別表2）の「表現」に基づいて公表する。「階層区分」と「表現」の関係につい

ても併せて公表する。各設問ごとの結果の比較は公表しない。

- (3)「別表 1」の「3」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (4)「別表 1」の「4」については、公表する。
- (5)「別表 1」の「5」については、仙北市全体の特に顕著な傾向を示すものについて公表する。
- (6)「別表 1」の「6」～「8」は公表しない。

(改善策の立案)

第 4 条 結果を受けた改善策は仙北市教育委員会北浦教育文化研究所「研究主任部会」及び「算数・数学学習指導研究委員会」、「国語学習指導研究委員会」に改善策の立案に必要な若干名の特別委員を加えた「仙北市『全国学力・学習状況調査』結果分析・改善委員会」において、次の内容について立案し教育委員会に報告する。

- (1)主として「知識」に関する問題について、結果に応じてその内容を確実に児童生徒に身に付けさせる方策について
- (2)主として「活用」に関する問題について、実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価改善する力を身に付けさせるための授業改善のあり方について
- (3)改善のための仙北市教育委員会の教育施策のあり方について
- (4)その他

(結果の公表の方法)

第 5 条 第 3 条に示す公表の内容及び第 4 条に示す改善策は、仙北市教育委員会北浦教育文化研究所において、改善策の策定後すみやかに報告書を作成し公表する。

(情報公開)

第 6 条 仙北市情報公開条例第 7 条 6 号を根拠として第 3 条に示す公表内容以外の情報は不開示情報とする。

(その他)

第 7 条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は教育長が別に定める

附則

この告示は、平成 19 年 12 月 20 日から施行する

附則

この告示は、平成 26 年 11 月 28 日から施行する

(別表 1)「文部科学省が市町村教育委員会に提供する資料」(第 3 条関係)

	内 容	備 考
1	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果概況	(1)棒グラフ(正答数別児童生徒の割合) (2)数値(正答数別の児童生徒数、平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差)
2	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	(1)表(「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の平均正答率) (2)表(各設問ごとの「学習指導要領の領域別」、「評価の観点別」、「問題形式別」の正答率、無回答率)
3	各市町村域内の公立学校全体の質問紙調査の回答状況	(1)表(児童生徒質問紙の各質問の選択し別の児童生徒数、割合)(選択肢別の学校数、選択肢別の学校数の割合) (2)棒グラフ(各質問の選択肢別の児童の割合)(選択肢別の学校の割合)
4	各市町村が設置管理する学校の参加概況等	
5	各市町村域内の公立学校全体の各教科区分別の調査結果と児童生徒質問紙調査の結果のクロス集計表	(1)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数) (2)表(各質問について*四分位層ごとに選択肢別の児童生徒数の割合)
6	各学校の各教科区分別の調査結果概況	各学校に提供される情報
7	各学校の各教科区分別の設問別調査結果・解答類型別調査結果	各学校に提供される情報
8	各学校の各児童生徒の各教科の調査・児童生徒質問紙への解答(回答)状況	各学校に提供される情報

「※四分位層」…成績の上位から 25%のきざみで 4 つのグループに分け相関の度合いを示す

(別表 2)「(別表 1) の 1 及び 2 の公表に係る階層区分と表現」(第 3 条関係)

	階層区分	表現
1	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +6% 以上であるもの	十分満足できる状況
2	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が +5% 以下～-5% 以上であるもの	おおむね満足できる状況
3	国及び県の平均正答率と仙北市の平均正答率の差が -6% 以下であるもの	改善が必要な状況

資料2

平成30年度 仙北市「全国学力・学習状況調査」結果分析・改善委員会名簿

	委 員 氏 名	備 考
1	高 橋 ひろみ	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (角館小学校)
2	高 橋 郁 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (中川小学校)
3	鈴 木 操	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (白岩小学校)
4	小 松 大 貴	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (生保内小学校)
5	鈴 木 久美子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (神代小学校)
6	小 松 智加子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (西明寺小学校)
7	齋 藤 智恵子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (桧木内小学校)
8	島 田 喜利子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (角館中学校)
9	佐 藤 義 紀	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (生保内中学校)
10	新田目 雅 行	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (神代中学校)
11	後 藤 春 子	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (西明寺中学校)
12	佐々木 充	北浦教育文化研究所 国語学習指導研究委員 (桧木内中学校)
13	佐 藤 真理子	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (角館小学校)
14	千 葉 仁	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (中川小学校)
15	佐々木 潤 一	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (白岩小学校)
16	鎌 田 真寿美	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (生保内小学校)
17	木 元 俊 子	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (神代小学校)
18	菅 原 千 暁	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (西明寺小学校)
19	築 友 章	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (桧木内小学校)
20	三 浦 誠	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (角館中学校)
21	松 井 知 則	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (生保内中学校)
22	小 松 朋 子	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (神代中学校)
23	藤 田 千 秋	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (西明寺中学校)
24	藤 川 重 光	北浦教育文化研究所 算数・数学学習指導研究委員 (桧木内中学校)
25	高 橋 猛	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (角館小学校)
26	佐 藤 知栄美	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (中川小学校)
27	佐々木 崇	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (白岩小学校)
28	高 橋 正 洋	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (生保内小学校)
29	大 澤 ハルミ	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (神代小学校)
30	根 布 谷 隆	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (西明寺小学校)
31	斉 藤 定 則	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (桧木内小学校)
32	西 根 義 明	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (角館中学校)
33	佐々木 康 洋	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (生保内中学校)
34	橋 本 千 東	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (神代中学校)
35	松 本 道 男	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (西明寺中学校)
36	湯野澤 美 穂	北浦教育文化研究所 理科学習指導研究委員 (桧木内中学校)
37	佐 藤 真理子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (角館小学校)
38	高 橋 郁 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (中川小学校)
39	甚 内 大 輔	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (白岩小学校)
40	三 浦 和 義	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (生保内小学校)
41	木 元 俊 子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (神代小学校)
42	津 村 義 章	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (西明寺小学校)
43	池 田 美香子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (桧木内小学校)
44	島 田 喜利子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (角館中学校)
45	高 山 昭 弘	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (生保内中学校)
46	齋 藤 まさ子	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (神代中学校)
47	松 本 道 男	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (西明寺中学校)
48	湯野澤 美 穂	北浦教育文化研究所 研究主任部会研究委員 (桧木内中学校)
49	三 浦 政 喜	北浦教育文化研究所 研究委員
50	佐 藤 公 則	北浦教育文化研究所 研究委員
51	伊 藤 昭 光	北浦教育文化研究所 研究委員